



21世紀石川少年の翼

交流事業報告書

2019



目 次

C O N T E N T S

Ⅰ はじめに（実行委員会委員長あいさつ）	1
Ⅱ 中国・江蘇省青少年交流事業（派遣）	3
○ 団長あいさつ	4
○ 私たちのレポート	5
○ 交流の思い出	13
○ 研修をふりかえって	18
○ 団員からのメッセージ	19
○ 色紙よせがき	20
○ 資料編	
日 程	21
名 簿	22
Ⅲ 海外県人会青少年育成交流事業（ブラジル派遣）	23
○ 団長あいさつ	24
○ 私たちのレポート	25
○ 交流の思い出	33
○ 研修をふりかえって	35
○ 団員からのメッセージ	36
○ 色紙よせがき	37
○ 資料編	
日 程	38
名 簿	40
Ⅳ ロシア・イルクーツク州青少年交流事業（受入）	41
○ 団長あいさつ	42
○ 交流の思い出	43
○ 感想文	48
○ 資料編	
日 程	51
名 簿	52
Ⅴ 韓国・全羅北道青少年交流事業（受入）	53
○ 代表あいさつ	54
○ 交流の思い出	55
○ 感想文	60
○ 資料編	
日 程	64
名 簿	65
Ⅵ 「21世紀石川少年の翼」これまでのあゆみ	66
Ⅶ 令和元年度「21世紀石川少年の翼」実行委員会委員名簿	67

はじめに

「21世紀石川少年の翼」実行委員会委員長
石川県観光戦略推進部長
山本 陽一

本県は、友好交流地域である韓国・全羅北道、中国・江蘇省、ロシア・イルクーツク州と幅広い分野で交流を展開してきております。なかでも青少年交流は、国際感覚や幅広い見識を持った青少年を育成する大切な事業との位置づけで、「21世紀石川少年の翼」として、平成8年度から実施しております。

今年度は、中国・江蘇省へ高校生8名を派遣し、韓国・全羅北道からは中学生8名、ロシア・イルクーツク州からは高校生9名を受け入れて事業を実施しました。このほか、海外県人会青少年育成交流事業としてブラジルへ高校生4名を派遣し、ブラジル石川県人会や地域の方々との交流を深めてまいりました。

本事業への参加を通じ、次代を担う青少年同士が言葉や習慣の壁を越えて友情を育むことは、青少年にとって貴重な経験となるだけでなく、互いの国の友好親善や交流の発展にも大きな意義を有します。

特に、派遣・受入とも交流プログラムに組み込んでいるホームステイは、通常の旅行では経験できない、互いの国の暮らしぶりや生活習慣等に触れることができ、またホストファミリーと密接な時間を過ごすことで、生涯忘れられない有意義な経験となっているところです。

本事業に参加した青少年の皆さんには、今回得た貴重な経験を生かし、今後とも学校や地域において、国際交流・協力活動やボランティア活動へ積極的に参加され、草の根交流を支えていただくことを期待しています。

本事業の実施にあたっては、市町をはじめ、関係機関・団体やホストファミリー、また、韓国・全羅北道国際協力課、中国・江蘇省人民对外友好協会、ロシア・イルクーツク州教育局、ブラジル石川県人会など多くのご関係の皆様にご多大なご協力を頂いております。こうした多くの皆様方に心より感謝申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます、ご挨拶といたします。

中国・江蘇省青少年交流事業（派遣）

期間：令和元年7月25日(木)～30日(火)

中国・江蘇省の豆知識

○位置

中国大陸の東部沿海地方の中心部、長江の下流に位置する。
東は黄海、南東に上海市、西は安徽省、北は山東省、南は浙江省に接する。

○面積

10.72万km²

○人口

約8,050万人

○制度

省が市を、市が県を管轄する行政制度

省直轄市：13

(南京、蘇州、無錫、常州、南通、揚州、鎮江、
連雲港、塩城、徐州、淮安、泰州、宿遷)

○省都

南京市

○江蘇省ホームページ

<http://www.jiangsu.gov.cn/>（中国語）



*Ishikawa Japan~
~Jiangsu Province China*

日中の更なる友好交流の促進に向けて

令和元年度 中国江蘇省派遣団 団長
石川県観光戦略推進部国際交流課
課長 戒 田 由香里

令和元年度「21世紀石川少年の翼」中国派遣団は、7月25日(木)から30日(火)の5泊6日の日程で江蘇省、上海市を訪問し、多くの思い出と貴重な経験を得て、全員無事に帰国することができました。本事業の実施にあたり、ご理解とご協力をいただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

石川県と江蘇省は、40年以上の長きにわたり、青少年、環境、女性団体、経済、学術研究、文化芸術等の幅広い分野で実りある交流を行っております。なかでも、平成8年から実施している青少年交流は、今回で23回目を数え、両県省の青少年の友好親善と相互理解の促進に大きな役割を果たしております。

今回、学校交流で訪問した南京田家炳高級中学は、日本語専攻課程を有しており、生徒達は大変流暢な日本語で我々を歓迎してくれました。ゲームやクイズ、歌や踊りなどを通じて交流しましたが、当初は緊張していた団員達もすぐに打ち解け、会話を楽しみながらお互いの距離がどんどん縮まっていく様子が伝わってきました。

今回の派遣で特徴的だったのは、団員達が「言葉の壁」に直面することがあまりなかったことです。相手方が日本語堪能であったことから、ホームステイ中に苦労して言葉の壁を乗り越えるという経験はしなかったようですが、その分、より親密なコミュニケーションをとり、中国の習慣・文化・歴史への理解を大いに深めることができたようです。ホームステイは2泊3日という短い期間でしたが、最後まで互いに別れを惜しむ姿には、見ているこちらも胸を打たれるものがあり、ホームステイ中の出来事をいきいきと語る様子に、今回の訪問が大成功だったと嬉しく思いました。

日中の次代を担う青少年が顔と顔を合わせて、習慣や言葉の壁を超えて、友情を育むことは、今後の両国の友好交流に大きな意義を持つと考えております。参加した8人の高校生が、今回得られた貴重な経験をしっかりと生かして、今後、学校や地域における国際交流の場で大いに活躍されることを期待しております。

最後になりますが、滞在期間中あらゆる面で細やかにお世話をいただいた江蘇省人民対外友好協会の皆様をはじめ、訪問校の先生方、ホストファミリーの皆様、参加した高校生の保護者の皆様、本事業の実施にご協力いただきました皆様方に改めて心より感謝申し上げます。

私たちのレポート

事前研修・知事表敬訪問

事前研修

日 時 7月13日(土) 10:30~
7月14日(日) 8:30~
場 所 石川県青少年総合研修センター
内 容 団員証交付式
オリエンテーション
団別研修
・交流会の出し物決定、練習
・派遣国について
・語学講座



団員証交付式



発表の準備



自己紹介



中国語講座：田原国際交流員



出し物の準備：南中ソーラン



出し物の準備：リハーサル

知事表敬訪問

日 時 7月19日(金) 16:30~
場 所 石川県庁 知事室
次 第 知事激励挨拶
団員代表挨拶
加賀高校3年 松本夏輝吏
懇談



知事表敬（代表挨拶）



知事表敬

1日目 7月25日(木)

10:00 金沢駅発

13:40 小松空港発(MU558)

10:10 県庁発

15:05 上海浦東空港着

10:50 小松空港着

21:50 南京駅着

12:00 結団式

結団式

場 所 小松空港2階

次 第 団長挨拶

団員代表挨拶

金沢商業高校3年 高桑 琴和

太田 伍香

金沢泉丘高校1年

一日目は昼に小松空港を出発し、2時間半ほどで上海浦東空港に到着しました。飛行機の中では機内食を食べました。機内食の中にゼリーのカップのようなものが2つあり、一つには水、もう一つには緑豆のぜんざいが入っていました。

飛行機を降りた後は、バスで電車の駅に向かいました。上海には高架道路がたくさんあり、私たちを乗せたバスも高架道路を通りました。高架道路の下にはたくさんの植物が生えていました。石川県では見かけない植物が多く、上海が亜熱帯であるということを実感しました。また、高架道路からはたくさん的高層ビルが見えました。バスは2時間以上走りましたが、その間一度もビル群が途絶えませんでした。それを見て、上海の人口の多さに圧倒されました。

この日の夕食は、駅の近くのレストランで食べました。テーブルの中央に回転するガラス板があり、そこに料理が並べられました。それを回して料理を取るという中華らしい食べ方を体験できて、うれしかったです。



小松空港



出発式



いよいよ出発



中国での初めての食事(夕食)



上海駅から南京へ

歓迎夕食会

場 所 江蘇中日友好会館
次 第 蔡錫生江蘇省人民対外友好協会
副会長挨拶
出席者紹介
団長挨拶
団員代表挨拶
星陵高校2年 奥田 陽彦

柴田 奏琉

七尾高校1年

今日の午前は中山陵と南京博物院を訪れました。中山陵では、三九二段の階段を登りました。登った先には、国父とされている孫文の墓がありました。孫文の遺体は地下深くに埋められており、見えるのは孫文の形をした像でした。それは、白くて綺麗でした。暑い日なのに、たくさんの方が来る一つの理由だと思いました。南京博物院では、唐や秦の時代の遺物を見ました。今もこうして綺麗にのこっているのは、素晴らしいと感じました。

午後には切紙体験をしました。プロの方から教わり、実際作ってみました。みんな、満足のいく作品が作ることができました。中国の伝統に触れることで、今も受け継がれている素晴らしさに感動しました。

夕方には歓迎夕食会があり、南京田家炳高級中学の生徒も参加していました。目が合うと、「ニコッ」と笑いかけてくれたり、話しかけてくれました。「自分のバディの子はどんな子なのだろう」と次の日からのホームステイが楽しみになりました。とても充実した一日でした。



中山陵



中山陵



中山陵(頂上から)



南京博物院



南京博物院



南京市民俗博物館



切り紙体験(南京市民俗博物館)



歓迎夕食会

学校訪問

場 所 南京田家炳高級中学
 次 第 南京田家炳高級中学 曹李莉校長挨拶
 団長挨拶
 南京田家炳高級中学学生による学校紹介
 石川県の紹介
 金沢泉丘高校2年 宗田小都華
 七尾高校1年 柴田 奏琉
 グループでの自由交流
 文化交流(出し物・ゲーム)
 説明 北陸学院高校1年 小西結希乃
 羽咋高校2年 木村 唯花
 校内見学
 集合写真

松本 夏輝吏

加賀高校3年

南京田家炳高級中学へ行き、学生のみんと交流しました。練習してきた出し物の発表もしました。文化交流などでは、レポートで、それぞれの国の魅力について発表できました。それぞれの国の魅力について知れたのでとても有意義な時間になりました。校内見学では、中国は人口が多いということもあって、学校も大きかったです。

ホームステイプログラムでは不安もあったけど、仲良くなれました。いろいろな場所に連れて行ってくれました。中国の伝統の料理を食べました。他にも、博物館など連れて行ってくれました。とても楽しい時間を過ごせました。



石川県の紹介



南中ソーラン



自由交流



自由交流



自由交流

奥田 陽彦

星稜高校2年

今日は、南京田家炳高級中学を訪問しました。校門で温かい歓迎を受け、まず学生から学校紹介の説明を聞きました。僕は彼らのとても流暢な日本語に驚くと同時に、発表する姿から、これまで懸命に日本語学習に励んできたことを感じました。それほど上手でした。その後、出し物による交流を行い、僕は練習してきたソーランを発表しました。日本の伝統的な踊りに少し親しみをもってもらえて嬉しかったです。交流が終わり、学校見学を行った後、ホームステイプログラムがスタートしました。午後からだだった為、あまり時間はありませんでしたが、僕は「夫子廟」へ行き、お土産を買ったり、皆で夕食も食べました。夕食で初めてふ化の近い卵を食べました。見た目は奇妙でしたが、味は卵と変わりなかったです。夜は湖へ行き、船に乗りました。彼らのガイドを聞いたことで、より中華史への理解が深まりました。夜景も美しかったです。充実した時間を過ごしました。



じゃんけん列車



集合写真



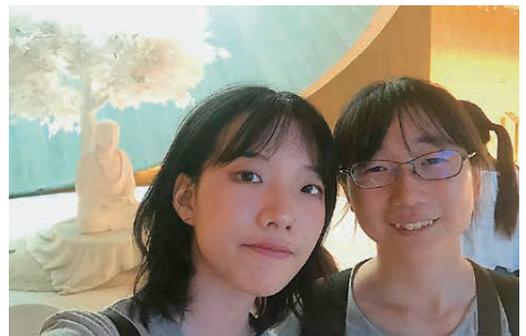
高桑 琴和
金沢商業高校3年

二日目は、遊園地に行きました。その遊園地は、室内なのにとっても広くたくさんのアトラクションがあってすごく楽しかったです。みんな空中ブランコやコーヒーカップにのりました。一日目より仲良くなれたと思います。

お昼ご飯にお弁当を食べて、ホストファミリーみんなとランプでババ抜きをしました。言葉では伝わらないけどみんな一緒に盛り上がる事が出来ました。中国では負けた人は白旗を揚げるという意味でティッシュを顔につけられました。本当に楽しかったです。

その後、スーパーに行きました。とても大きなスーパーで食品だけでなく家電製品や服まで売っていました。食品の売り方も日本とは違い、肉はそのままの状態です。カエルも生きてそのまま売られていて驚きました。普段の生活の場を見ることが出来て良かったです。

夜は、オリンピックの選手村だった南京の目といわれている場所に行きました。たくさんの方がジョギングなどの運動をしていて夜でも賑やかでした。ライトアップされている橋がとても綺麗で感動しました。



宗田 小都華

金沢泉丘高校2年

ホームステイ二日目は、博物館とゲームセンターと様々なものが売っているお店に行きました。博物館では中国の歴史を映画や漫画を通して学びました。おひるごはんでは食べたのは、ショーケースに入っている串刺しの食材を、好きな分だけバケツに入れ、店員さんに渡すと火鍋に入れて出てくるという食べ物でした。とても辛いので日本で言う黄な粉黒糖もちと、餡蜜のようなものも同時に食べていました。辛いけどおいしいなあと思いながら食べていると、なんと次に出てきたのは豚の脳みそでした。驚きつつ、食べてみると、白子のような味でした。正直、豚の脳みそいけるなあと思いました。ホストファミリーやそのおともだちはとても優しく、「これ食べ。」と言ってたくさん食べさせてくれました。ゲームセンターは見た目は大体日本と同じでした。一つ違うのは、コインを購入し、コインの枚数に応じて出来るゲームが変わることです。大体4~8枚くらいでほとんどのゲームが出来るのですが、一つだけ18枚必要なゲームがありました。それはVRのバイクレースでした。体験してみるとジェットコースターに乗っている気分ですごく楽しかったです。お店にはカラフルでかわいい物が沢山売っていました。また中国のパフェはとても豪華でいろんなものが入っていました。とてもおいしかったです。



5日目 7月29日(月)

- 8:50 ホームステイ先から集合
- 10:00 南京駅発
- 11:47 上海駅着
- 13:30 豫園
- 16:00 上海中心大廈
- 20:20 バンド(外灘)散策
- 21:30 ホテル着



ホストファミリーの見送り



ホストファミリーの見送り



豫園



レストランの展望台より



豫園



上海中心大廈



上海中心大廈



バンド(外灘)

小西 結希乃

北陸学院高校1年

ホームステイ先から、江蘇中日友好会館に団員が集まった後、バスで南京駅に行きました。そこから高速鉄道に乗り、約2時間かけて上海駅に向かいました。

上海市内の視察は歩いて見て回りました。多くの観光客でいっぱい、中国のお土産や食べ歩きできるようなお店が多くありました。その後、昔ながらの中国の復元された建物がある豫園の中に入りました。そこには珍しい形をした岩がたくさんありました。

次に、世界で2番目に高いとされている上海中心大廈に登りました。632メートルもあり、とても高く綺麗な景色を見ることが出来ました。

中国で食べる最後の夜ご飯では、鍋を食べました。とても美味しかったです。そして夜景を見にバンドへ行きました。イルミネーションされたタワーやビルが綺麗な景色でした。とても良い1日になったと感じました。

9:25 上海浦東空港発(FM825)

13:05 富山空港着

14:45 県庁着、解団式



上海浦東空港



富山空港へ

解団式

場 所 石川県庁

次 第 団長挨拶

団員挨拶

金沢泉丘高校1年 太田 伍香

木村 唯花

羽咋高校2年

あっという間に中国滞在、最後の日。朝は6時20分にホテルを出発し、朝が弱い私にとってはつらかったです。上海浦東空港に到着し手荷物検査や出国審査などの搭乗手続きを済ませました。そして飛行機に乗り本当にお別れなのだなと実感しました。飛行機が飛び立つ瞬間、中国での思い出の数々が頭に浮かびました。想像以上に発展していた街並み、チャレンジに勇気が必要だが食べるとおいしい食べ物、温かくて親切な人々。どんどん小さくなり遠ざかっていく中国の景色を見るのは何とも言えない寂しさでした。

あっという間に富山空港に到着し改めて中国と日本の距離の近さを実感しました。日本語が通じる喜び、日本に帰国できた安心感から団員たちは自然と笑顔になっていました。

そしてバスで県庁へ移動し解団式を行いました。団員一人一人の感想を聞いて今回の研修は団員全員にとって大変有意義なものであったと分かりました。大きなトラブルもなく団員全員が研修を終え無事帰国できて本当に良かったです。



解団式



解団式

交流の思い出

中国での思い出

金沢泉丘高校1年 太田 伍香

中国は暑いと聞いていましたが、その暑さは想像以上でした。体に吹きつける風は熱風で、沸騰したお湯の上にいるかのようなようでした。また、上海には見渡す限り高層ビルが立ち並んでいました。私は、都会がどこまでも広がっている様子に衝撃を受けました。都会は狭いものだと思っていたけれど、広い都会もあるのだということが分かりました。上海では、視界の端までずっと平地が広がっていました。それを見て、遂に大陸にやってきたのだなあとしみじみ思いました。

この中国派遣で一番不安だったのは、ホームステイでした。中国語が全く話せない上に日本のこともよく知らなかったのも、会話ができないかもしれないと思っていました。しかし、その心配は無用でした。交流をした高校生たちは、日本の大学への進学を目指しており、日本語が通じたのです。また、優しく、意見がはっきりしていて、とても話しやすい人たちでした。ホームステイでは、私を家に泊めてくれた邱悦さんとその友人数名と愛知県から来た米津君と一緒に、観光地やカラオケ、ショッピングモールに行きました。カラオケやショッピングモールでの買い物、親抜きのお食事は、初めての体験だったのでわくわくしました。また、手慣れた様子で料理の注文や会計をする現地の高中生を見て、大人っぽいと思いました。ホームステイ初日は、晩ごはんを食べた後に、南京夫子廟という所に行きました。料理屋を出た時、既に9時を過ぎていたので、私は少し心配になりました。「帰らなくても叱られないの？」ときくと、「この時間に出歩くのは普通だよ。学校が終わるのもこれくらいの時間だから！」という邱悦さん。私は聞いて驚きました。平日は夜の9時まで学校にいて、普通の勉強の他に日本語も勉強して、休日には夜中まで街中で遊ぶなんて！こんなにエネルギッシュな人が世の中にいたのかと、開いた口が塞がりませんでした。

私はこの6日間でたくさんを知りました。中国に行ったことで、世界は自分の知らないことであふれていると気付かされました。そして、以前は全く興味のなかった外国のニュースに、少し耳を傾けるようになりました。

最後に、この事業を支えてくださった方々、すてきな夏の思い出をありがとうございました。

中国での6日間

加賀高校3年 松本 夏輝吏

自分は今回初めての海外旅行でとても楽しみな反面、少し不安もありました。中国に到着して思ったことはとても蒸し暑く日本とは違う暑さでした。また、人口も日本より多いということもあり交通量が多く驚きました。飲み物も冷たい飲み物ではなくぬるい物ばかりでした。初日は移動だけでしたが、移動しているときには、普通に割り込まれたりして譲り合う日本は良い国だなと感じるほどでした。いろんな形で日本との違いを感じた1日でした。

2日目には中山陵へ行き長い階段を登って見た景色はすごくきれいでした。南京博物院では、中国の歴史についての物が多く展示されていました。南京市民俗博物館では中国の歴史についての物や伝統的なおもちゃや置物などがありました。少し日本と似ている部分があり、日本の古くからあるものは中国から伝わってきている物が多くあるということがわかりました。最後には切り紙体験をして、思ったよりも難しくとても貴重な体験ができました。

高級中学での学生たちとの交流ではお互いに日本と中国の魅力について知ることができたと思います。ホストファミリーの人と対面する時は緊張したけど段々仲良くなれて良かったです。

ホストファミリーの人は日本語がとても上手くて驚きました。自分が話すときはいつも日本語だったので、英語や中国語を勉強しておけば良かったと思います。ホストファミリーとの時間はとても楽しく終わるのがあっという間でした。ホストファミリーには自分を受け入れてくれてすごく感謝しています。団員の皆と引率の先生方、6日間ありがとうございました。



中国に行ってみて

七尾高校1年 柴田 奏琉

私たちは、五泊六日の中国への海外研修に行って、たくさんのことを学んできました。はじめて訪れる地で、最初は不安と緊張でいっぱいでした。でも、心の中には楽しみという気持ちもありました。

この海外研修で、もっとも印象に残ったことはホームステイです。研修の二日目に行われた歓迎夕食会の時には、南京田家炳高級中学の生徒が参加していて、その子は話しかけてくれたり、笑いかけてくれたりしてくれて、「自分のバディはどんな子で、どんな家族なんだろう」とホームステイが楽しみになっていました。

私のバディはいつも私のことを気にかけてくれ、人混みのなかでは手をつないでくれるなど私を助けてくれました。とても優しく素直な子でした。また、ネイルをしたり、メイクをしてくれて、まるでお姉ちゃんのような存在でした。彼女の家族もいつも私を気遣ってくれ、食べ物の好き嫌が多い私に「これは食べれる？」などと心配してくれました。

また、中国の生活を実際に体験してみて、日本と似ていると思っていたのに違っているところがたくさんあり、私は驚きを感じました。例えば、お風呂の習慣です。日本は湯船につかるという習慣があるのに対して、シャワーだけということです。そんな大きな違いがあり、当たり前だと思っていたことが当たり前ではなかったことに気づかされました。アジアというくくりの中にいるからと言って、文化や習慣が一緒だとは限らないと知りました。

今回の海外研修では不安もあったけど、彼らの優しさに触れることによって、そんな気持ちも一気になくなり、とても充実した日を送ることができました。この研修で学んだことをもっといろんなの人に知ってもらい、中国についてたくさんの人に興味をもってもらえるように努めていきたいです。

最後にこの研修を行えたことに感謝したいです。



僕と君と中国で

星稜高校2年 奥田 陽彦

僕がこのプログラムに参加しようと考えたのは、中学時代、中国人の友達がおりに、彼との交流の中で、中国への強い憧れや関心を抱いたからです。日本より規模の大きな国に住む人々の考え方やモノの見方を学びたいという思いを胸に日本を旅立ちました。

実際に到着したとき、僕にとって聞こえてくる中国語、売り物、広告、空気や建物、景色、全てが新鮮でした。初めて食べる本場の中華料理はとて量が多く、味も美味しくて大満足でした。滞在して一日も経っていませんでしたが、ビル群の美しい夜景や夜でも蒸し暑いこと、バイクが電動で日本より静かだったこと等発見が多くありました。眠る頃には住み慣れた国のように思えて、不思議な気持ちでした。

今回、様々な場所に訪れましたが、僕の中で特に印象に残っているのは「中山陵」です。中山陵は孫文（孫中山）の墓で、その墓までに三九二段の階段があります。この三九二という数字は当時の人口である三億九千二百万人を表していて、不思議なことに階段を登ると登った平面が一本の道のように見えます。登りきった後、頂上から見える景色は驚くほど美しく、街全体を一望できました。

そしてここからは全日程の中で最も楽しかった学校訪問とホームステイについて書きます。今回、訪問したのは南京田家炳高級中学で、主に日本語を学ぶ生徒達と交流しました。一番驚いたのは、彼らの日本語があまりに流暢だったことです。日本から訪問した僕達を本当に温かくもてなしてくれ、中国での流行や日本への旅行経験、日本のどんなものを知っているかを話しました。彼らと一緒に企画した遊びをしたり、校内を見学することはすごく楽しかったです。ホームステイ先の楊の家族は僕を温かく迎えてくれました。「お腹がすいたかい」とか「どこに行きたい」といつも僕のことを気にかけてくれ、本当に嬉しかったです。楊や楊の友達とは「夫子廟」という夜景の美しい場所でお土産を買ったり、湖で船に乗りました。皆が歴史について僕に解説してくれたので、中国への歴史理解が深まりました。家に帰ってからも、一緒に音楽を聴いたり、好きなアニメを見たり、趣味の話をしたりととて

も充実した時間を過ごせました。

ホームステイ二日目も屋内遊園地や大きなスーパー、元々選手村があった南京の中心部に行き、皆で写真を撮り、たくさんの思い出を作りました。そして驚いたことに中国では、ババ抜きが盛り上がりました。中国の皆はゲームが好きで、ババ抜きもかれこれ十五回くらいしました。楊の家族はもちろんのこと、楊の友達の家族とも親睦を深めることができ、本当に充実した時間でした。その為、別れる日の朝は少し憂鬱でした。皆と別れることが寂しかったけれども、笑顔で再会を誓い、バスに乗りました。バスの車窓から皆の姿がだんだんと小さくなっていくのと同時に改めて自分がホストファミリーにどれほど大切に思われていたかを感じ、少し目が潤みました。この六日間、僕を大いに成長させてくれた全ての皆さんに感謝したいです。

中国の文化に触れて

金沢泉丘高校2年 宗田 小都華

正直、中国に対しての第一印象は「暑い！なんか怖い！」等でした。道路にはたくさんの電動自転車や車、歩行者がいました。とにかく交通量が多くてうるさい。また、声が大きくて騒がしいなという印象でした。しかし、過ごしていく中で私の考えは変わっていきました。

そしてまた一つ感じたことは、日本よりも進んでいる部分と遅れている部分があるなと思いました。何よりも驚いたこと。それはキャッシュレス社会です。私は中国の人で現金を使っている人は誰一人も見ませんでした。一度だけ現金を使用したのですが、店員さんに苦笑いされてしまいました。また、貸出自転車がとても便利だと思いました。好きな場所から乗って好きな場所においていく、とても楽だし何より安かったです。運賃もとても安く、地下鉄は20~30円でした。果物などもとても安いうえにおいしかったです。逆に遅れている点では、一番にトイレの水道状況が挙げられると思います。水は流すことはできるのですが、紙が流せない。日本に帰ってきたときの解放感は半端なかったです。道路には数メートルごとにゴミ箱が置いてあってごみの分別をしなくていいそうです。また、ゴミ箱を置くことで仕事が見つかる人が沢山いるらしく、どれも大切なんだなと思いました。

ホストファミリーから聞いたことですが、中国の人の声が大きいのは怒っているからではなく、耳が悪いからだそうです。私たちから見ると抵抗があることでも彼らにとっては普通のことであってそれを真っ向から否定するのは違うんじゃないかなと思いました。

ホームステイでは中国の一般的な家庭を体験することが出来ました。マザーとはなかなかコミュニケーションがとりにくい中、とても親切にしてくれて、おいしいご飯をたくさん作ってくれました。夜中から餃子を一緒に作るようになった時は驚いたけどすごく楽しかったです。

中国の高校生は、とても勉強熱心だなと思いました。普段の学校では夜の九時まで学校で自習があり、夏休みだというのに毎日学校が40分×10限の授業があるそうで、流石だと思いました。正直日本では考えられないほどの勉強量でした。ファミリーのクラスの子たちは、来年の夏から日本の大学に留学するそうで、すごいなと思いました。来年までに何とか中国語をマスターしたいと心から思いました。

ファミリーはとにかく優しくかわいくて、彼女に出会えて本当に良かったです。私と同じ俳優が好きらしくてそこでも意気投合しました。ホームステイ中は一度もお金を使わず、全て払ってくれました。何よりもサービス精神がすごかったです。もし石川県に来ることがあるのなら最高のおもてなしで恩返しをしたいです。

訪問前まではあまりいいイメージのなかった中国でしたが、今では大好きになりました。

私が中国へ行くことができたのも、楽しむことができたのも、たくさんの人の支えがあったからです。感謝の気持ちを忘れずにこれからも励んでいきたいです。



見て触れて感じた中国

羽咋高校2年 木村 唯花

「夏休みに中国へ行こう！」きっかけは教室に貼られていた1枚のチラシでした。私は国際交流への憧れと中国への強い関心から応募を決めました。テレビのニュースでしか見聞きしたことがなかった中国を自分で実際に見てみたいと思いました。

私の初めての国際交流は中国行き飛行機でした。隣の中国人男性が日本語で話し掛けてくれ機内食を私に分けてくれました。本当に親切な方で印象的な出会いとなりました。

中国に到着し、まず驚いたのは人口の多さです。空港、駅、道路の混雑は日本とは比べ物になりませんでした。また中国と日本は文化や風習において似ているところもあれば大きく異なるところもありました。例えばトイレは水洗だが紙は流さないこと、お風呂はシャワーのみの家庭が多いこと、食べ物を残すのがマナーということなどです。特に私が驚いたのは常温や温かい飲み物が多いことです。ホテルの朝食でコーンフレークに牛乳をかけたら湯気が出ていました。ホームステイ先でもお茶や豆乳などの飲み物は全て常温でした。夏でも冷たい飲み物を飲まないことに本当に驚きました。

私が最も楽しみにしていたプログラム、ホームステイ。ホストファミリーが本当に親切で温かかったです。日本の芸能人が好きだったり、今、日本でも話題のドラマに詳しくたり日本や日本人への関心の高さを感じました。日本について興味津々に聞いてくれて本当に嬉しかったです。しかし私が中国語が分からない為、会話がスムーズにいかない時もあり、言語の大切さを痛感しました。またホストファミリーに会える機会があれば改めて中国語でしっかりお礼を伝えたいです。

今回の派遣を通して印象的だったのは日本への関心の高さです。中国は大きな国で私が見たのは、ほんの一部なのかもしれないけど想像以上に日本と日本人が好きな人が多かったです。現地に行ったことで違う視点から見て気付くことが多くありました。中国がもっと好きになり日本の良さも再確認できました。

中国での6日間は驚きと喜びの連続で本当に充実した時間でした。このような事業にまた参加したいです。

今回の中国派遣に携わったすべての方々に感謝しています。本当にありがとうございました。

中国で過ごした六日間

北陸学院高校1年 小西 結希乃

私は、外国での生活を体験してみたいという思いと、日本とは違う文化に触れてみたいという思いから、今回、中国派遣を希望しました。団員に決定したとき、六日間、中国で過ごすということにももちろん不安もありましたが、楽しみな気持ちでいっぱいでした。

中国に到着してまず思ったことは、日本では感じる事ができないほどの暑さとたくさんの人でした。世界で最も人口が多いとされている中国ですが、実際に見てみるとやはり人の数の多さに驚かされました。移動中のバスの中から見た高いビルの多さや、車の数にも驚きました。やはり日本と中国では全然違うなと改めて実感しました。また、六日間しっかりやっていけるかという不安が少し軽くなった気もしました。

中国派遣の三日目から始まるホームステイはとっても緊張しました。私を招いてくれたのは、日本のドラマやアイドルが好きな高校2年の女の子でした。とても話しやすく、その家族も優しかったです。彼女は私を南京の観光地や漢時代の伝統衣装体験をさせてくれるなど、とても私を楽しませてくれました。中国で普段食べられているご飯をホストファミリーと一緒に食べながらの会話は本当に楽しかったです。英語で会話をしたり中国語を日本語に訳しての会話だったりして、私ももっと英語の勉強をしようと思いました。ホストファミリーと過ごす時間はあっという間に過ぎていきました。彼女らには感謝の気持ちでいっぱいです。

ホストファミリーと別れて他の団員と合流し、そこから上海へ向かいました。上海で食べたお昼ご飯がとてもおいしかったことを覚えています。夜には夜景を見にバンドへ行きました。それは、昼間に見た上海とはまったく違う風景でした。イルミネーションされたタワーやきれいに光るビルや船が本当にすばらしくきれいでした。

私はこの六日間の中国派遣で、実際に自分の目で見たり体験して、これまで知らなかった中国のことを少し知ることができました。

今回の派遣を通して、日本と中国で文化や言葉など違うところが多くあるけど、中国の人々との交流の中で遠い存在のように感じていたことが身近に思えるようになりました。このように思うことができるきっかけとなった、今回の少年の翼に参加することができて、本当に良かったです。

初めての連続

金沢商業高校3年 高桑 琴和

今回私は初めての海外で中国に行く前は少し不安がありました。学校で中国語の授業があるといっても話せるレベルでもなくホームステイの時どうやって気持ちを伝えようか緊張していました。しかし一日目の移動が終わり南京に着いたときは充実して楽しい気持ちでいっぱいでした。本場の中華を食べたり、たくさんの人に巻き込まれながら新幹線に乗ったり、すべてのことが初めてでたくさんの刺激を受けました。

孫文の墓である中山陵の階段を上ったことは一つ自慢できることだと思います。とても暑い中みんなで392段の階段を上って頂上まで行きました。頂上から南京の町を一望することが出来てここまで来て良かったと思いました。上からでは階段の踊り場しか見えなくなっていて、素敵な作りだと思います。その後南京博物院に行き南京の歴史や文化を学びました。学校の歴史の授業で出てきたこともあったり、とてもわかりやすいガイドの方の説明のおかげでたくさんを知ることが出来ました。

そして三日目は学校訪問でした。田家炳の生徒達はとても温かく私たちを迎えてくれて本当に嬉しかったです。驚いたのが一年生の時から日本語の勉強があるのでみんなとても日本語が上手ということです。すべて日本語で話かけてくれて私ももっと中国語を話せるようになってからだったら良かったと少し残念でした。みんな日本のアニメや芸能人に興味があり会話が盛り上がりました。私を招いてくれた女の子、璇ちゃん（センちゃん）もホストマザーもホストファザーもとても優しく親切で心温かくなりました。午後からは観光地に行ってみんなでご飯を食べた後、船に乗って夜景を見ました。一つ一つの橋や建物を説明してくれて学びながら楽しむことが出来ました。ホームステイの

二日間で南京の東西南北すべての場所に連れて行ってくれました。ホストマザーとホストファザーは、日本語がわからないので解釈アプリを使って私の家族のことや学校のことを紹介しました。コミュニケーションを取れて嬉しかったです。二日間という短い時間だったけど最高級のおもてなしをしてくれたホストファミリーに感謝の気持ちでいっぱいです。

ホストファミリーと別れた後、私達は上海へ行きました。上海は南京と違って湿気の無いからつとした暑さでした。夜にみんなで夜景を見ました。キラキラして綺麗で中国に来て良かったと心から思いました。5泊6日の研修はあっという間でした。驚いたこと楽しかったこと面白かったことたくさんの思い出が出来ました。不安もあったけど自分から行きたいと行動して良かったと思います。中国で感じたことを忘れずにたくさんの人に伝えます。そしてもっとたくさんの国に行き実際に現地の文化に触れたいです。今回の研修で私と関わったすべての方に感謝しています。



研修をふりかえって 管理員から

1. 期待と緊張の出発

7月25日午前10時、長く続いた梅雨もようやく明け、集合場所の県庁ロビーに、訪問団の高校生たちと集まりました。表情がやや硬い生徒も見られましたが、お互いに談笑しながら、小松空港へ向け出発しました。

小松空港到着後、2F出発ロビーで「結団式」を行いました。団長の戒田課長からは、事前研修で学んだことを生かし、同世代の中国の高校生と友情を育み、お互いに理解を深めるよう激励の言葉を頂きました。その言葉を受け、団員を代表して高桑琴和さんから、団員全員で協力しながら、この研修を成功させるとの決意表明があり、気持ちも新たに、上海浦東国際空港へ向けて出発しました。

2. 海を越えて

小松空港から上海浦東国際空港まで、飛行機で僅か3時間程で到着しました。時差は1時間ほどありましたが、国境を越えた感じはしませんでした。しかし上海浦東国際空港では、その規模の大きさや人波の多さに、到着直後から圧倒されました。その後、上海市内で夕食を済ませ、高速鉄道で南京市へ向かいました。

上海から南京へ約300キロの旅を終え、南京駅へ到着した頃には、時刻も21時を過ぎ、宿泊地には22時過ぎに到着しました。生徒たちの表情には、やや疲労感も見えましたが、無事に到着した安堵感もあり、笑顔も見られました。

3. 博愛の都、南京にて

南京は2400年の歴史をもっており、別名「金陵」と呼ばれ、中国四大古都の一つにも数えられています。一夜明け、二日目を迎えた私達は、その歴史に触れることとなりました。まず始めに訪れたのが、孫文の眠る「中山陵」でした。江蘇省人民対外友好協会の蔣露さんに案内して頂きました。

バスを降りると、南京特有の蒸し暑さに晒され、降車した直後から汗が流れました。孫文のお墓は小高い丘の上にあり、そこへたどり着くためには、392段もの階段を登らなくてはなりません。それでも生徒達は、途中立ち止まることもほとんどなく、無事に丘の上までたどり着くことができました。丘の上からは、南京の街を一望でき、とても美しい景色でした。この時生徒達と眺めた景色は、忘れられない瞬間となりました。

4. 温かく歓迎された夕食会

夕方、ホテルで歓迎夕食会が開かれました。同時期に訪問している愛知県の訪問団と合同で出席することとなりました。冒頭、江蘇省人民対外友好協会副会長蔡錫生氏から、訪問団に対する歓迎の温かい言葉を頂いた後、団員を代表して奥田陽彦さんが挨拶をしました。多くの方が見守る中で、初めは緊張ぎみでしたが、異国の地で見たことや感じたことを、日本の高校生の視点で素直に語ってくれました。リハーサルもなく、すぐに本番でしたが、堂々とやり遂げてくれました。

5. 学校訪問と期待のホームステイ

翌朝、学校訪問へ出発しました。訪問校である南京田家炳高級中学校では、生徒達からの熱烈な歓迎を受けました。曹李莉校長をはじめ、教職員の方々、そして49名の訪問校の生徒達と、歌や踊り、ゲーム等を通して親交を深めました。訪問校の生徒達は、日本語を学んでいる生徒が多数おり、日本の文化に関心を強く持ってくれていました。そこでお互いに準備していた発表や踊り、ゲームをそれぞれに紹介し合いました。特に石川県の生徒達全員で、法被を着て踊った南中ソーランは、中国の生徒達の目にも新鮮に映ったことと思います。

歓迎会後、石川県の8名の生徒達は、それぞれのホストファミリーと共に、ホームステイ先の家庭へと向かっていきました。いよいよホームステイプログラムの始まりです。どんな時間を過ごすことができるのか、期待が膨らむ出発でした。

二日後、ホームステイを終え、集合場所のホテルまで8名の生徒達は帰ってきました。ホームステイで、掛け替えのない時間を過ごしたことが、その表情から読み取れます。それぞれにホストファミリーとの別れを惜しみ、再会を約束する姿もありました。

6. たくさんの経験と思い出を胸に

上海浦東国際空港を出発し、予定の時間に県庁へ到着しました。解団式では、団員を代表して太田伍香さんが訪問を振り返り、「初めは言葉や習慣の違いに戸惑うばかりだったが、『笑顔』とともに南京の人々と親交を深めていく中、その違いを理解できるようになっていった。この経験をこれからの生活に生かしていきたい」と、挨拶をしてくれました。

7. 終わりに

今回の訪問を通して、私も多くの発見と貴重な経験を得ることができました。8名の高校生たちの旺盛な好奇心、その場の状況に応じて臨機応変に対応する柔軟さ。その「タフ」なチャレンジ精神に、こちらが学ぶことも多かったように思います。言葉や習慣の壁を乗り越え、その「違い」を認め合うところから交流が始まり理解が深まるのだと、改めて実感させてもらいました。今回訪問した高校生達には、ここで得た経験を忘れずに、自分たちのこれからの生活に生かして行ってほしいと願うばかりです。また、このような機会を与えてくれた家族や周囲の方々への感謝を忘れないでもらいたいです。

最後に、本県の高校生たちを受け入れて頂いた江蘇省人民対外友好協会の皆様をはじめ、訪問校の先生方、ホストファミリーの皆様、現地でサポートをして頂いた蔣露さん、そして団長として団員一人一人のことを気にかけて下さった戒田課長に感謝の意を表すと共に、この派遣の担当として、現地との連絡調整、事前研修の準備・運営を担い、いつも生徒達に寄り添って頂いた三井さんに心よりお礼申し上げます。

(石川県教育委員会学校指導課 指導主事 柳瀬 道雄)

団員からのメッセージ

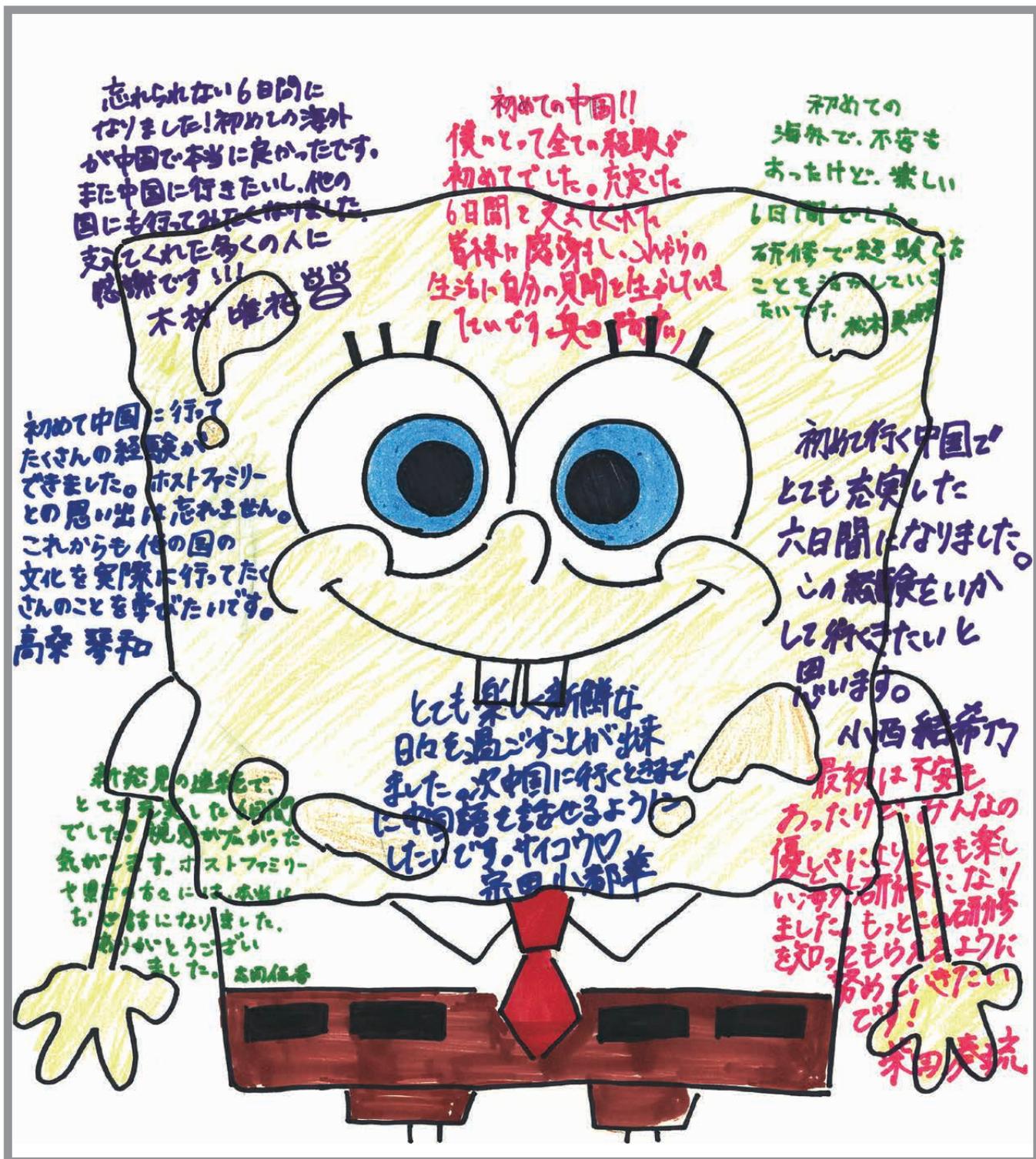
メ ッ セ ー ジ

- ・派遣中は見るもの、聞くこと、全てが新鮮で驚きの連続です。
- ・自分から話しかけたり、質問したりする積極性は重要です。
- ・身の回りの情報でなく、自分の目で確かめることが大切です。
- ・五感を活用する！！
- ・時間が惜しいけれど、しっかり睡眠をとって国際交流を楽しんでください。
- ・日本では体験することができないことが外国にはたくさんあるため、ぜひ自分の目で見て確かめてほしいと思います。
- ・この海外派遣事業では普通に旅行するのとは別の楽しみや素晴らしさを感じることができます。そして、世界のいろんな国について学ぶことができます。この機会を通じて、みなさんもたくさんの方に挑戦してみてください！
- ・不安や緊張もあるかもしれないけど、初めての経験がたくさんあり団員のみんなともとても仲良くなれて本当に良い経験になるので心配しなくていいと思います。少しでも現地の言葉を話せるとより楽しいと思います。
- ・違う国の人とコミュニケーションを取るために英語の勉強をしたらいいと思います。
- ・とても忘れられないかけがえのない思い出と経験を得ることができます。悔いのないように楽しんでください。

アドバイス・反省点

- ・ホストファミリーには英語が通じないことがある。日常会話程度の中国語や、文化を説明できると良い。
- ・英語は発音をはっきりしないと通じなかった！
- ・中国語の簡単な日常会話をもっと覚えておけば良かった。
- ・せっかくなので覚えた中国語は自信がなくても使ってみると良い（喜ばれる、通じるのか試せる）。
- ・Google翻訳で中国語をダウンロードしておく、オフラインでも使えます！
- ・食べ物の味や現地の人のお話を書き留めるのにメモ帳は必須！
- ・中国の天気は、とても蒸し暑いので、なるべく薄い素材の服を持っていった方が良い（多めに）。タオルや帽子は絶対必要。
- ・とても暑いので小型の扇風機があるといい。
- ・手荷物にリュックサックともう一つショルダーバックがあるとすごく便利。
- ・キャリーケースは3泊くらいの中サイズ。あまり大きすぎない方がよい（電車で苦勞する）。
- ・空港で没収されてしまうので持ち込めない物は確認した方が良い（液体は100mlのものまで）。
- ・ホームステイのときに「どこに行きたい？」と聞かれて観光地を2、3か所挙げられればよかった。
- ・日本の写真は喜ばれる。
- ・お土産をホームステイ先でたくさんもらったので、小遣いは1万円もいらなかった。
- ・学校交流での出し物の練習が足りなかった。
- ・お土産はいろいろな種類を多めに持っていった方が良い。
- ・お土産は中島めんやの「おきあがりこぼし」は石川にしかないのでおすすめ！
- ・風鈴が中国にもあると知らずおみやげに持ってきてしまった。

色紙よせがき



令和元年度 「21世紀石川少年の翼」(中国・江蘇省派遣) 日程

管理員3名/団員8名

月 日	都市名	時 刻	交通機関	日 程	宿 泊 先	
1 日 目	7月25日 (木)	金 沢 小 松 上 海 南 京	10:00 10:10 10:50 12:00 13:40 15:05 16:00 17:30 20:00 21:50 22:20	中型バス MU558 貸切バス 高速鉄道	金沢駅集合、金沢駅発 県庁集合、県庁発 小松空港着 結団式 小松空港発 上海浦東空港着 上海市内へ移動 夕食 上海駅発 南京駅着 江蘇中日友好会館着	江蘇中日友好会館
2 日 目	7月26日 (金)	南 京	9:00 ~16:00 16:20 18:00	貸切バス	ホテル発 南京市内視察 (中山陵、南京博物院、切り紙体験等) ホテル着 江蘇省人民対外友好協会 歓迎夕食会	江蘇中日友好会館
3 日 目	7月27日 (土)	南 京	8:30 8:50 ~12:30 午後	貸切バス	ホテル発 南京田家炳高級中学訪問 (歓迎式、文化交流、校内見学) ホームステイプログラム	ホームステイ
4 日 目	7月28日 (日)	南 京	終 日		ホームステイプログラム	ホームステイ
5 日 目	7月29日 (月)	南 京 上 海	8:50 10:00 11:47 12:00 ~20:40 21:30	高速鉄道 貸切バス	ホームステイ先からホテル集合 南京駅発 上海駅着 上海市内視察 (豫園、上海中心大厦、バンド等) ホテル着	上海大衆空港賓館
6 日 目	7月30日 (火)	上 海 富 山 金 沢	6:45 9:25 13:05 13:45 14:45	徒歩 FM825 中型バス	上海浦東空港へ移動 上海浦東空港発 富山空港着 富山空港発 県庁着 解団式	

令和元年度
「21世紀石川少年の翼」(中国・江蘇省派遣)名簿

管 理 員

NO.	区 分	氏 名	性別	所 属
1	団 長	かい だ ゆかり 戒 田 由香里	女	石川県国際交流課 課長
2	管 理 員	やな せ みち お 柳 瀬 道 雄	男	石川県教育委員会 学校指導課 指導主事
3	管 理 員	みつ い ま ゆ こ 三 井 茉 祐 子	女	石川県国際交流課 主任主事

団 員

NO.	学 校	氏 名	性別	学年	役 割
1	金 沢 泉 丘 高 校	おお た いつ か 太 田 伍 香	女	1 年	交流係
2	星 稜 高 校	おく だ はる ひこ 奥 田 陽 彦	男	2 年	記録係
3	羽 咋 高 校	き むら ゆい か 木 村 唯 花	女	2 年	リーダー
4	北 陸 学 院 高 校	こ にし ゆきの 小 西 結 希 乃	女	1 年	交流係
5	七 尾 高 校	しば た かな る 柴 田 奏 琉	女	1 年	生活係
6	金 沢 商 業 高 校	たか くわ こと わ 高 桑 琴 和	女	3 年	生活係
7	加 賀 高 校	まつ もと か ぎり 松 本 夏 輝 吏	男	3 年	記録係
8	金 沢 泉 丘 高 校	むね だ こと か 宗 田 小 都 華	女	2 年	サブリーダー

海外県人会青少年育成交流事業（ブラジル派遣）

期間：令和元年7月31日(水)～8月9日(金)

ブラジル連邦共和国の豆知識

- 面積
851.2万km²
- 人口
約2億947万人
- ブラジル石川県人会
 - ・設立 昭和12年4月
 - ・会員数 396家族



「ブラジルと石川県との絆をつなぐ友好交流の一層の促進のために」

令和元年度 ブラジル派遣団 団長
石川県観光戦略推進部国際交流課
課参事兼課長補佐 北川 健一

21世紀石川少年の翼ブラジル派遣団は、ブラジルに思いを馳せ、約35時間の長旅に出発しました。異国の地ブラジルでは今なお息づく日系人社会や経済成長著しいブラジルの姿を見て多くのことを学び、無事帰国することが出来ました。本事業の実施にあたり、ご理解とご協力いただきました多くの関係の皆様方に厚く御礼申し上げます。

石川県とブラジルの間では、次世代を担う青少年の交流を深めるとともに、海外県人会との将来的な人的交流基盤を構築するために、平成18年度から海外県人会の中高生と本県の高校生を隔年で相互に派遣する海外県人会青少年育成交流事業を実施しています。

青少年の相互理解を深める本事業は、次代を担う青少年の健全育成のために大変意義深いものであると考えています。とりわけ、今回の訪問ではブラジル石川県人会の皆様からは、全日程を手配していただいた上、同行もしていただくなど心温まるおもてなしを受けました。おかげで団員にとって非常に思い出に残る内容となり、こうしたことが団員の今後の国際的分野での活躍につながるものと期待しています。

今回の4名の団員は、海外経験が豊富な団員や好奇心旺盛な団員など個性豊かなメンバーが揃い、約35時間に及ぶ長旅にもかかわらず、団員の表情は到着を待ちきれない笑顔であふれていました。

学校訪問では、団員の一人が習字を披露したほか、事前研修で練習してきた折り紙で交流し、ブラジルの生徒と意気投合している姿は達成感であふれていました。

ホストファミリーとの対面式では、期待と不安の入り混じった表情の団員と団員を家族のように迎え入れるホストファミリーの姿があり、異国の地ブラジルに時代を担う新しい石川の家族が生まれた瞬間のような気がしました。ホームステイは石川県が最も力を入れている国際交流のひとつで、ホストファミリーとの数々の思い出は団員の一生の宝物になると思います。

このほか、ブラジル日本移民資料館や日本文化を発信するジャパンハウス、コーヒー博物館の見学など、見るもの聞くものすべてが団員のみなさんにとって掛け替えのないものになると信じており、今回のブラジル訪問を契機に、石川県の未来を担う若者として、学校や地域で大いに活躍されることを期待しております。

最後になりましたが、今回のブラジルとの青少年交流を支えてくださったブラジル石川県人会の皆様をはじめ、訪問校の先生やホストファミリーの皆様、保護者の皆様、本事業にご協力いただきましたすべての皆様方に心から感謝を申し上げます。

私たちのレポート

事前研修・知事表敬訪問



団員証交付式



交流会の出し物の準備（折り紙）

事前研修

日時 7月13日(土) 10:30~
7月14日(日) 8:30~
場所 石川県青少年総合研修センター
内容 団員証交付式
オリエンテーション
団別研修
・ 交流会の出し物決定、練習
・ 派遣国について
・ 語学講座



ブラジルの説明



ポルトガル語講座



知事表敬

知事表敬訪問

日時 7月19日(金) 16:30~
場所 石川県庁 知事室
次第 知事激励挨拶
団員代表挨拶
金沢大学附属高校1年 有吉 希生
懇談



知事表敬（代表挨拶）



知事表敬

7:10	結団式	11:57	成田空港着、搭乗手続き
7:48	金沢駅発(かがやき504)	14:25	成田空港発(AM57)
10:20	東京駅着、乗り換え	13:50	メキシコシティ空港着
11:03	東京駅発(成田エクスプレス19)	19:05	メキシコシティ空港発(AM14)

結団式

場 所 金沢駅もてなしドーム地下広場
次 第 団長挨拶
 団員代表挨拶
 金沢錦丘高校2年 青木 彩華

有吉 希生

金沢大学附属高校1年

7月31日、午前7時。僕たち石川少年の翼ブラジル派遣団は、金沢駅を出発しました。金沢からブラジル、サンパウロまでは途中のメキシコでの待ち時間も入れて、約35時間。初めは、この長さを聞いても「まあ、途中で、プレゼント用の鶴を折ったり飛行機の中で寝たりしたらすぐだろう。」と、甘く考えていました。

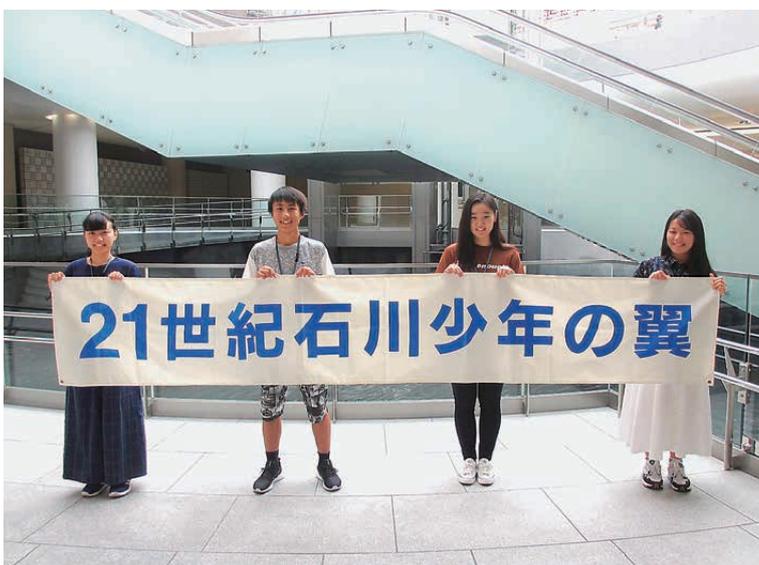
午後2時に成田を出発した飛行機が、メキシコに着いたのは日本時間の午前3時。そこからさらに、メキシコシティ空港で6時間の待ち時間。やっと飛行機に乗ったと思えば、さらに10時間のフライト。生まれて初めて10時間以上のフライトを経験し、体力的にも、精神的にも疲れがひどかったです。

さらには、飛行機が、もうそろそろサンパウロ空港に到着というところで、悪天候により着陸出来ず、そのままりオ・デ・ジャネイロの空港に行くことに。予定より4時間遅れではありましたが、無事にサンパウロにつき、一安心したのを覚えています。

こうして僕たちの、6泊10日のブラジル研修は始まりました。



結団式での代表挨拶



結団式 (金沢駅)



成田空港



メキシコシティ空港で交流会で使う鶴を折る団員

2日目 8月1日(木)

- 7:30 リオ・デ・ジャネイロ空港着
- 9:30 リオ・デ・ジャネイロ空港発
- 10:15 グアルーリョス空港着
- 12:40 ジャパン・ハウス見学
- 13:30 SESCビル見学
- 15:15 ブラジル日本移民史料館見学
- 16:50 ブラジル石川県会館訪問
- 19:00 歓迎夕食会

歓迎夕食会

場 所 マツバラホテル
次 第 ブラジル石川県人会会長挨拶
団長挨拶



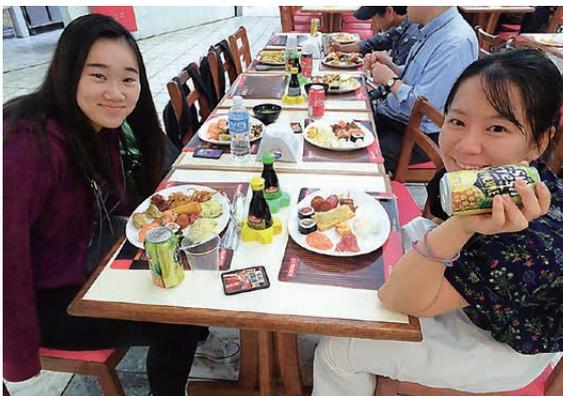
グアルーリョス空港到着



ジャパン・ハウス



ジャパン・ハウスの日本酒の展示



昼食 (なんでもや)



ブラジル日本移民史料館



ブラジル日本移民史料館



ブラジル石川県会館 (石川文庫)

ホストファミリー対面式

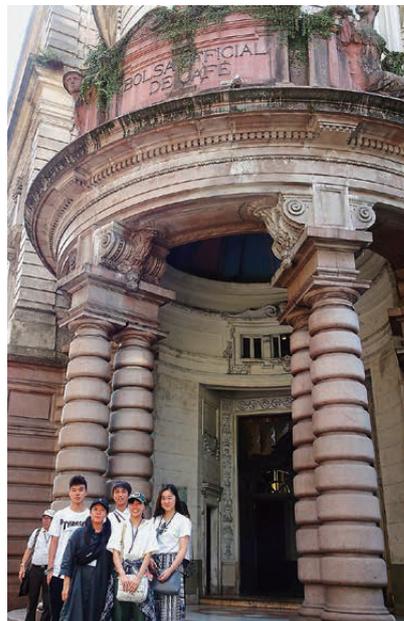
場 所 ブラジル石川県会館
次 第 ブラジル石川県人会会長挨拶
団長挨拶
ホストファミリーとの対面
夕食、懇談
団員代表挨拶
金沢大学附属高校1年 有吉 希生



モンチ・セハーの丘のケーブルカー



モンチ・セハーの丘



コーヒー博物館



日本移民ブラジル上陸記念碑

井波 萌々果

北陸学院高校2年

コーヒー博物館へ行きました。そこでは、コーヒーの歴史だけではなく、コーヒーと移民の深い関係についても知ることができました。見学が終わり、みんなで本場ブラジルのコーヒーを飲みました。すごく大人な味がしました。ミルクと砂糖を入れても酸味が結構強く、飲みきることができませんでしたがいい経験になりました。将来大人になってこの味のおいしさがわかるようになります。

次に展望台に行き、サントスの街を見下ろしました。とても綺麗な街並みでした。

お昼ご飯はビーチを見渡しながらブラジル料理を食べました。デザートも頼みましたが、量がとても多く1人では食べきれないためみんなで協力して食べました。

その後、日本移民上陸記念碑の像の前で記念撮影をし、サンパウロへと戻りました。

夜はホストファミリーとの対面式でした。みんな、ドキドキしながらも笑顔でホストファミリーと会話を弾ませていました。



ホストファミリー対面式での代表挨拶



ホストファミリー対面式

4・5日目

8月3日(土)
4日(日)

終日 ホームステイプログラム
21:00 ホームステイ先から集合



ホストファミリーと



ホストファミリーと



ホストファミリーと

富田 綾子

金沢二水高校2年

今日は昨日初めて出会ったホストファミリーとのホームステイプログラムの日。ブラジルに住んでいる人の日常的な暮らしを感じたかった私はこの日を楽しみにしていた。

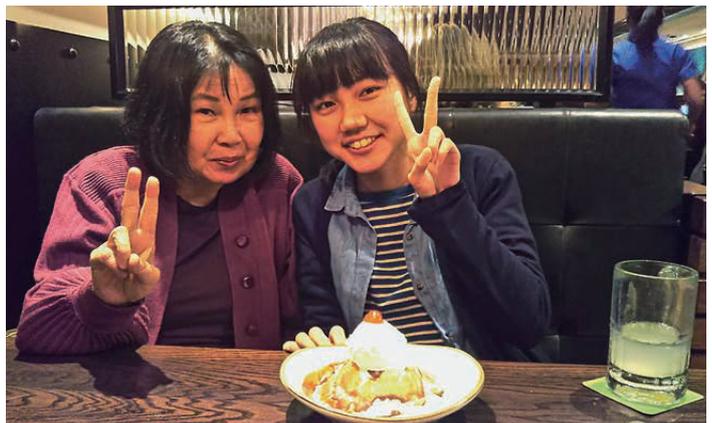
朝ご飯を食べ、まず向かったのはホストマザーの両親の家だった。初対面であるにも関わらず本当の孫のように暖かく迎え入れてくださってうれしかった。そしてサッカー博物館へ足を運んだ。サッカーの本場というイメージのあるブラジルで様々な展示品、また説明を聞いて、言葉の壁をも乗り越えて楽しめる施設だった。その後訪れたサンパウロ美術館ではゴッホやモネの作品を見ることができて、また作品の展示方法も独特で様々な観点から美術を味わうことができた。自分の予想以上にホストファミリーに良くしていただき、朝から晩までブラジルに触れさせてもらえてとにかく充実した一日だった。

青木 彩華

金沢錦丘高校2年

ブラジルも五日目。しかしホームステイプログラムは最終日だ。今日はサンパウロ美術館、通称MASPへ連れてってもらった。外観が不思議で、どうやって館を支えているかとても気になる構造だ。入って見ると、とても広々とした空間があり、日本の美術館と全く作りが違う。ピカソやゴッガンなど巨匠の絵が多くありとても面白かった。余談だが、ブラジルではゴッガンのことをゴーガンと言うそうだ。

美術館を出た後はストリートをぶらぶら。いろいろな屋台があったり野外ライブしていたりして面白かった。



ホストファミリーと



ピオネイロ中央学校長表敬訪問



学校訪問：折り紙で交流



学校訪問：書道の披露



ピオネイロ中央学校の生徒と撮影

有吉 希生

金沢大学附属高校1年

だいぶブラジルでの生活に慣れてきた、6日目。この日は待ちに待った学校訪問がありました。僕たちが訪問したのは、ピオネイロ中央学校。もともと日本人の赤間さんという女性が設立した学校なんだそうです。

実際に校内を回ると日本の学校とは全てが違い、驚きばかりでした。大きな食堂に、中庭にはフットボールのコート……。まさに“こんなところに通いたい”が詰まっていました。

そのあと、実際にその学校の生徒の授業にお邪魔し、金沢紹介などをしました。生徒たちと話していると、祖父が日本人だったり、日本のことが大好きだったりする人が多かったことが印象に残りました。

そのあと、日本人開拓先没者慰霊碑参拝と、日本館を見学しました。ブラジルにいるはずなのに日本にいるような気持ちになってしまう空間が広がっていて驚きました。

お昼からは、サンパウロ水族館を見学しました。水族館ではなく、動物園なのではないか、と思うほど豊富な種類の生物が飼育されており、ブラジルのみで生息しているものまで見ることができました。

この日も、現地の人と接し、生物と触れ合い、貴重な体験ができた一日でした。



イビラブエラ公園（日本移民開拓先没者慰霊碑前）



イビラブエラ公園（日本館）

7日目 8月6日(火)

- 8:50** セー広場、
メトロポリタン大聖堂見学
- 11:40** 市営市場見学
14:55 ブタンタン毒蛇研究所見学
- 9:40** カタベント科学博物館見学
- 19:30** さよならパーティー

さよならパーティー

場 所 ブラジル石川県会館
次 第 ブラジル石川県人会会長挨拶
 団長挨拶
 夕食、懇談
 団員代表挨拶
 北陸学院高校2年 井波 萌々果
 出し物披露



セー広場

井波 萌々果

北陸学院高校2年

この日はサンパウロ滞在最後の日でした。
 メトロポリタン大聖堂に行き、その後、科学博物館を見学しました。いろいろおもしろ実験が置いてあり楽しかったです。そこから歩いて、近くの市営市場に行きました。とても大きな市場で、いろんな新鮮なものが売られていました。特にフルーツは何店舗もお店がありました。見たことないフルーツがすごく高く積み上げられていました。日本とは違い、試食はその場で店員さんがナイフで切って渡してくれました。一口では食べきれないほど大きくて、いろんな種類を食べさせてもらい、とても太っ腹な店員さんたちでした。そして違うお店では、パンの中にハムを何層も重ねたサンドイッチみたいなものをたべました。これもすごく大きくて食べるのが大変でしたが、おいしかったです。
 昼食を食べ、ブタンタン毒蛇研究所へと向かいました。あんなに間近で初めて蛇を見ました。興味深かったです。
 夜はさよならパーティーでした。6日間を締めくくる、とても楽しい会でした。



カタベント科学博物館



ブタンタン毒蛇研究所



さよならパーティー：書道の披露



さよならパーティー：歌の披露



さよならパーティー：県人会の皆さんと撮影

8・9・10日目

8月7日(水)

9:40 グアルーリオス空港発(AM15)

17:00 メキシコシティ空港着

8月8日(木)

1:40 メキシコシティ空港発(AM58)

8月9日(金)

6:40 成田空港着

8:50 成田空港発
(成田エクスプレス6)

9:53 東京駅着、乗り換え

10:24 東京駅発
(かがやき509)

12:54 金沢駅着

13:10 解団式



グアルーリオス空港での記念撮影

富田 綾子

金沢二水高校2年

長かったようで短すぎたブラジルでの生活が終わる日。空港まで向かうバスの中でまだここにいたいなと切実に思った。滞在中に関わっていただいた方々はびっくりするくらい優しく、暖かくて、まだまだ知らないことをもっともって教えていただきたいと感じた。バスから見える街並みもやっぱり日本とは全然違ってどれもこれも新鮮だったブラジル、でも日本対蹠点に位置し、もう二度と訪れる機会がないかもしれないブラジル。そんな地の景色をしっかりと目に、そして心に焼き付けて日本へと旅立った。

青木 彩華

金沢錦丘高校2年

成田への飛行機に乗るために、メキシコの空港で待機中、とても眠かった。ブラジルに居た時は全くもって眠気など感じなかったのに。知らぬ間に疲労が溜まっていたらしい。この調子だと成田への飛行機でも沢山寝てしまうだろう。楽しいときは疲労を感じないものだ。ブラジルでも一度体調を崩していることだし、気を付けなければ。旅行中の体調管理はパスポートと命の次に大切だ。

長いようで短い十日間が終わり、とうとう金沢に帰ってきた。解団式が始まり、これで研修も終わってしまうのかと少し寂しく思う。

この経験をこれからの日々に生かしていきたい。



解団式

解団式

場 所 金沢駅もてなしドーム地下広場

次 第 団長挨拶

団員挨拶

北陸学院高校2年 井波 萌々果

交流の思い出

研修を終えて

金沢錦丘高校2年 青木 彩華

きっかけは母からの提案だったが、今回の研修に参加することができて本当に良かったと思う。正直、最初は乗り気ではなかったし、とても怖かった。夏休みの3分の1が潰れるし、行くのは日本語の通じない、英語圏ですらないブラジルだ。また、他の団員と仲良くできるかという意味でも、心配だった。しかし、今は本当に研修に参加できて良かったと思う。

まず、行って感じたのは性格の違いだろうか。皆フレンドリーで積極的で優しかった。私が内気過ぎてそう感じるだけかもしれないが。ホストファミリーは始終私を気にかけてくれ、行きたい所は？とか、コレどう？とかたくさん話しかけてくれた。会話は楽しかったし、会話の中で、ブラジルの知識だったり、日本と似ているところや、違うところを知ることができ、とても嬉しかった。学校訪問では、グループに分かれて鶴の折り方を教えたのだが、ポルトガル語は勿論のこと、英語も上手くない私の説明を皆一生懸命に聞いてくれ、最後は皆綺麗な鶴を完成させていた。折り終わった後は、若者の間の挨拶など、いろいろな言葉を教えてくれた。前述したが、私は内気というか受動的なので、これを機にそういう風にならなりたいと思った。

勉強、知識に対する意識の違いも感じた。会った方達が日系人というものもあるのだろうが、皆さん日本のことをよく知っていた。私は行くまでは殆どブラジルについて知らないと言っても過言ではないのに、驚きだ。また、語学に関しても、熱かった。ホストシスターはポルトガル語に加え、スペイン語、英語、日本語と四か国語も話せるらしい。何だか英語嫌いとか言ってる自分が恥ずかしくなった。

違いを挙げれば切りがないが、似ている所もたくさんあった。具体的にと言われるとすごく難しいが。気づいた時は分かるのに不思議だな。日本の神社、お寺位で教会があることとか.....

今回のブラジル研修では、とても沢山のことを学んだ。情報量が多すぎて新しい知識で昨日覚えたことが抜けていく位だ。感想にも、研修日誌にも書いていない、書けていない事が山ほどある。この研修を今後に生かしていきたい。

最後になったが、このような実りある研修を作ってくださった方々に感謝を。ありがとうございました。

地球の裏側にて

金沢大学附属高校1年 有吉 希生

「お前の見ている世界は小さい。」母は、いつも僕にそう言った。僕はこの16年間、その意味をうまく理解することができなかった。

自分の見ている世界とはなんなのか。広い視野とはなんなのか。自分が見ている世界より広い世界とはなんなのか。今回のブラジル訪問のなかで、それら問いに対しての答えのヒントを多く掴んだのではないかと思っている。

日本人は今から100年以上前からブラジルの土を踏んでいた。船で約3ヶ月の旅を経て、言葉の通じない土地に移住し、慣れない環境の中で苦勞と努力を重ねた彼らのことを考えると、鳥肌が立った。

さらには、ブラジルに日本の文化や芸術が広く知られている理由も、彼らの子供、孫が彼らの守ってきた祭りや、技術を伝承し、受け継いできたからだそう。今まで、僕のブラジルに対しての知識は、日本人が多く移住し、日系人が多いということくらいだった。しかし、その事実の裏には様々なドラマがあり、またそれらは世代を超えて受け継がれていることを知った。

ブラジル滞在中には、多くの人と交流した。石川県人会の皆さん、ホームステイ先のファミリー、学校訪問で出会った生徒。出会った人々はみんな明るく、フレンドリーな人たちばかりだった。彼らと接していく中で、ブラジル人と日本人の違い、もっと言えば生活してきた風土の違いを感じることができた。

僕はこれから先、なにをしていきたいか明確には持っていない。だけどひとつだけ、目標がある。それは将来、世界を飛び回り、誰かの笑顔を創る仕事に就くことだ。今回ブラジルに訪問してその想いはさらに強くなった。

今回出会った方々や、経験したことを忘れず生きていきたい。

繋がる絆 サンパウロ～石川

北陸学院高校2年 井波 萌々果

ブラジル派遣に合格したと聞いた時、とても嬉しかったと同時に、全く実感が湧きませんでした。事前研修、知事表敬、予防接種を終え、いよいよ出発の日がやって来ました。35時間というフライトの長さも、私はあまり不安ではなく、楽しみ！というワクワクの方が勝っていました。

ブラジルに滞在した6日間は私にとって毎日が刺激的で、充実した日々を過ごすことができました。いろんな場所へ連れて行っていただいた中で特に印象に残った場所は、ブラジル日本移民史料館です。これまで私は、日本移民の歴史について何も知りませんでした。その場所には細かく歴史が残されていて、当時人が住んでいた家なども再現されていました。案内をくださった方も、昔はこの家に住んでいたと聞き、今同じ時代を生きて、実際に会って喋っている人が、こんな暮らしをしていたんだと思うと感慨深いものがありました。今日、こうして日本とブラジルの交友関係が続いているのは戦争のさなか、遠いブラジルの地へと渡った日本人の血のにじむようなつらい努力の賜物だと思いました。それと同時に、石川県の代表として派遣された私たちも、少しでも日本とブラジルをつなぐ架け橋になりたいと思いました。

そしてなんとといっても、ホームステイが特に楽しかったです。お世話になった家族の娘さんは、以前私がホストファミリーとして受け入れていてもともと交流があり、私は再会できることをとても楽しみにしていました。対面式で会えた時は、思わず抱きついてしまいました。お姉ちゃん2人の3姉妹でお父さん、お母さん、すごく大きな犬のダイゴの6人家族でした。2日間という短い間、いろんな所に連れて行ってもらい、限界を超えるくらいたくさんのお物を食べさせてもらい、素敵な思い出をたくさんもらいました。優しく親切で、本当の家族のように接してくれて、お別れするのが寂しかったです。必ずまた会いに行きたいし、日本にも来てもらいたいです。

訪問中、たくさんのお貴重な経験をさせていただきました。自分の視野を広げる事ができ、これからの将来を考えるいいきっかけとなりました。団長をはじめ、携わって下さった皆様にとっても感謝しています。ありがとうございました。

Muito Obrigada!

金沢二水高校2年 冨田 綾子

私がこの交流の思い出の題に選んだ“Muito Obrigada”はポルトガル語で“ありがとう”という意味を表します。本当に短い間でしたが数多くのことを経験して、今でも自分がブラジルに行っていたことを実感できないくらいあっという間の1週間でした。そんな滞在中にお世話していただき、たくさんのお話を教えてくださった森永さんをはじめとする県人会の皆さん、そして金沢からずっと私たちをサポートしていただいた管理員の方をはじめとするブラジルでかかわっていただいたすべての人に心からこの言葉を送りたいです。

ブラジルへ行くまでブラジルに対しては日本から遠くて、サッカーが強い国という認識くらいしかありませんでした。日本ではあまりブラジルに馴染みがなく、その国の特徴、文化、歴史について詳しく知っている人のほうが少ないのではないかと思います。その一方、ブラジルでは、日本料理のお店が立ち並び、日本の祭りも開催されていて、その文化に興味を持っている人、そして日本語を学校外で勉強している人がたくさんいました。初めて日本から移民としてブラジルへ渡ったところから100年以上がたつ今、日本からブラジルへは物理的な距離も、また心の距離も遠い一方で、ブラジルから日本への心の距離はずっと近いなと感じました。ブラジルのみならず、ほかの国のことを自ら知ろうと模索し、知識を得ることはもっと私たちの可能性を広げてくれるはずだと派遣を終えた今考えます。ブラジルへ到着しての数日は自分と現地の方々とのパーソナルスペースの差に戸惑いを感じました。しかし多くの人との交流を通じて、それは相手を大切に思っている印であるようにとらえられました。男女という性別の垣根を越えてリスペクトしあい、絆を築くそんな姿勢がとても魅力的に思え、日本でもこのような文化が広まっていったらいいなと考えます。ブラジルでの体験、経験、発見、気づき、これらはこれからの人生を送るうえで私にたくさんのおヒントを与えてくれると思います。それらを糧とし、国際交流においてより一層活躍できる人材に成長していきたいです。

研修をふりかえって 管理員から

令和元年度21世紀石川少年の翼 ブラジル派遣事業（海外県人会青少年育成交流事業）を関係者の皆様のご協力のもと、無事終了できたことを心からお礼申し上げます。

今回、訪問団一行は、7月31日から8月9日まで6泊10日の行程でブラジルを訪問しました。金沢から約35時間かけてサンパウロへ到着する予定でしたが、現地の天候不良が原因でサンパウロへ着陸できず、そのままリオ・デ・ジャネイロへ向かい、機内で待機後、無事約4時間遅れで到着しました。空港でブラジル石川県人会の森永会長と小堀相談役にお出迎えいただいたときには、やっと到着できた安心感と長時間私たちを空港で待っていてくださったことに対する感謝の気持ちでいっぱいになりました。

初日は、到着時間が遅れたこともあり、予定通りに訪問先をまわれるか心配もありましたが臨機応変に県人会の皆様が対応してくださいました。初めに訪問した「ジャパン・ハウス・サンパウロ」では、館内ではちょうど日本酒の展示コーナーが設けられており、多くの来訪者でにぎわっていました。展示内容が日本を感じられるものばかりで、現地の日系人以外の方に対しても、日本への関心を引き付ける展示内容になっている印象を受けました。

また、この日はブラジル石川県会館も訪問し、会館で定期的に行っている陶芸教室の様子を見ることができました。この石川県会館が会員の皆さんの文化活動の拠点となっていることを改めて実感しました。

現地での滞在は6日間という短い期間でしたが、ブラジル石川県人会の皆様が素晴らしいプログラムを作ってください、充実した滞を送ることができました。サンパウロにあるブラジル日本移民史料館やサントスの日本移民ブラジル上陸記念碑の見学などは移民について理解を深めることができる場所であり、当時の様子について思いを馳せ、団員は新たな学びをここで得ることができたのではないかと思います。

そして、団員が最も生き生きとしていたのが現地の高校生との交流でした。事前研修では現地でどのような出し物をすれば喜んでもらえるか、団員みんなで真剣に考え、準備をしてきました。言葉がうまく通じない中でも、団員それぞれが現地の高校生と積極的にコミュニケーションを取りながら一緒に折り鶴を折って交流している姿に感動しました。

本事業では、滞在中にホームステイプログラムを組み

込んでおり、今回もブラジル石川県人会の皆様が団員を本当の家族のように温かく迎えてくださいました。ホストファミリー対面式では、初めはやや緊張気味だった団員もすぐに打ち解け、それぞれが充実したホームステイ生活を送ることができました。最終日のさよならパーティーでは22時を過ぎてもまだまだ皆さんが名残惜しんで帰ろうとしない様子からも、わずか数日間でホストファミリーと団員との固い絆ができたことを感じました。

今回の訪問ではブラジル石川県人会の皆様のおかげで心づかいを深く感じるとともに、次代を担う若者同士の交流を末永く続けていきたいという熱い思いを強く感じました。限られた時間でしたが、団員が現地で自分の目を見て、感じ、経験したこと、そして同世代の生徒との交流やホストファミリーと過ごした時間は、今後も忘れられない思い出として団員の胸に深く刻みこまれたことと思います。

最後に、滞在中、いつも私たち訪問団のことを気にかけてくださり、プログラムの作成から訪問団への同行等、きめ細やかな対応をしてくださった森永会長をはじめ、お世話になったブラジル石川県人会の皆様、同行取材をしてくださった井出記者、本事業の実施にあたりご協力いただいた関係者の皆様に厚くお礼申し上げます。

（県国際交流課 主任主事 橋場 真美）



団員からのメッセージ

メ ッ セ ー ジ

- ・体調管理はしっかりした方がよい。ご飯が美味しいからと言って食べ過ぎると次の日体調を崩すかも。
- ・人生において、ここでしかできない経験がたくさんできました。途中のフライトはきついけど、現地に着けば楽しいことばかりなので是非楽しんでください。
- ・何も心配することはありません。言語が違って最初は戸惑ってしまうかもしれないけど、思い切ってたくさん会話してみてください。毎日が刺激的でとてもいい経験になります。
- ・もう二度と行くことがないかもしれない国かもしれないので体調に気を付けて恥を捨てて精一杯ブラジルを感じてきてください。現地での気づき、経験はこれからの人生の糧になるはずです！！

アドバイス・反省点

- ・滞在中は寒いと言われていたけど、それほどではないだろうと思い、薄い長袖を数着しか持って行かなかったけどすごく寒かったので服をもっと考えて持っていけばよかったと思った。服は結構重いので、帰るときに重量制限にひっかかるので最低限持って行けばよい。
- ・WI-FIは借りなくてもよい。
- ・寒い、おなかがいっぱいなどの自分の体調はきちんと伝える。
- ・「日本でも買える」じゃなくて「ここで買ったから思い出になる」と思って買う。
- ・とりあえず電子辞典を持っていく。
- ・腹八分目にする。
- ・服は洗えばよい。
- ・お土産は自分の買ったもののほか、たくさんのをいただけるのでスーツケースは余裕を持たせたほうがいいです！
- ・ブラジルの生徒と話す機会があつて、ブラジルについてどう思う？とか感想や意見などを問われることが多かったので自分の考えをもっと持っていったらよかったしブラジルにいる間は常に感じ、考え続けたいといけなかったと思う。

色紙よせがき

Muitoobrigado!



ブラジルでの
6日間は、本当に楽しかった！
今、思い返すと、全ての経馬食が
宝です！

また帰る日を夢みて、これから
がんばっていきましょう。

ホストファミリーの本コト、
ブラジルで出会った皆さん、
本当にありがとう！！
金沢大学附属高等学校
1年 有吉 春生

この研修に参加しては
か、たい。ブラジルには
一生行かぬが、たいと思うし、
ブラジルの魅力も知らない
まま。たい。たい。たい。の経験
をためて、本当に良かったと思う。
研修を交えて下さり、皆さん、本当に
ありがとう。金沢錦丘高校
2年 青木 彩華

もう二度と訪れる機会がないかも
しれない国、ブラジルの
そんな地での滞在は全てが新鮮で、
私に新たな知性、感性を与えてくれた
ように思います。これから多様な
世界と異文化を自分の目で見て、感じ
ていきたいです。

金沢二水高校 2年
富田 綾子

この機会が「いいね」。
99%の訪れることへの「いいね」
あつた。ブラジル 19才という
若さで、貴重な経験と成長を
おぼろげに。
ブラジルの工場の国があること
あり、99%の個性がある。おぼろげに。
「こんな場所に行き、いろんな人と出会って
「こんな人があるんだ」と私の視野を
とらえた。おぼろげに。将来に生かして
いきたい。ありがとう。おぼろげに。
北陸学院高校 2年 井根 萌々果

令和元年度 「21世紀石川少年の翼」(ブラジル派遣) 日程

管理員2名/団員4名

月 日	都市名	時刻	交通機関	日 程	宿 泊 先	
1 日 目	7月31日 (水)	金 沢 東 京 メキシコ	07:00 07:10 07:48 10:20 11:03 11:57 14:25 13:50 19:05	かがやき504 成田エクスプレス19 AM57 AM14	金沢駅集合 結団式 金沢駅発 東京駅着 東京駅発 成田空港着 成田空港発 メキシコ着 メキシコ発	(機中泊)
2 日 目	8月1日 (木)	リオ・デ・ジャネイロ サンパウロ	07:30 09:30 10:15 12:40 13:30 14:40 15:15 16:50 18:00 19:00	貸切バス	天候不良のためリオ・デ・ジャネイロへ リオ・デ・ジャネイロ発 グアルーリョス空港着 ジャパン・ハウス見学 SESCビル見学 昼食(なんでもや) ブラジル日本移民史料館見学 ブラジル石川県会館訪問 ホテルチェックイン 夕食(マツバラホテル)	マツバラホテル
3 日 目	8月2日 (金)	サンパウロ サントス	08:50 19:10	貸切バス	ホテル発 サントス市へ移動 モンチ・セハーの丘見学 コーヒー博物館見学 昼食(ポルシャ展望台) 世界一長い海浜公園見学 日本移民ブラジル上陸記念碑見学 日本移民100周年記念碑見学 サンパウロ市へ移動 ホストファミリー対面式 (ブラジル石川県会館)	ホームステイ
4 日 目	8月3日 (土)	サンパウロ	終 日		ホームステイプログラム	ホームステイ
5 日 目	8月4日 (日)	サンパウロ	終 日 21:00		ホームステイプログラム ホームステイ先から集合	マツバラホテル
6 日 目	8月5日 (月)	サンパウロ	08:45 09:05 11:30 13:05 15:15 17:30 20:15 22:35	貸切バス	ホテル発 学校訪問 イビラプエラ公園見学 日本移民開拓先没者慰霊碑参拝 日本館見学 昼食 サンパウロ水族館見学 ショッピング 夕食 ホテル着	マツバラホテル

	月 日	都市名	時 刻	交通機関	日 程	宿 泊 先
7 日 目	8月6日 (火)	サンパウロ	08:30 08:50 09:40 11:40 13:20 14:55 19:30	貸切バス	ホテル発 セー広場見学 メトロポリタン大聖堂見学 カタベント科学博物館見学 市営市場見学 昼食 ブタンタン毒蛇研究所見学 さよならパーティー(ブラジル石川県会館)	マツバラホテル
8 日 目	8月7日 (水)	サンパウロ メキシコ	06:10 09:40 17:00	貸切バス AM15	ホテル発 グアルーリョス空港発 メキシコ着	(機中泊)
9 日 目	8月8日 (木)	メキシコ	01:40	AM58	メキシコ発	(機中泊)
10 日 目	8月9日 (金)	東 京 金 沢	06:40 08:50 09:53 10:24 12:54 13:10	成田エクスプレス6 かがやき509	成田空港着 成田空港発 東京駅着 東京駅発 金沢駅着 解団式	

令和元年度
「21世紀石川少年の翼」(ブラジル派遣) 名簿

管 理 員

NO.	区 分	氏 名	性別	所 属
1	団 長	きた がわ けん いち 北 川 健 一	男	石川県国際交流課 課参事兼課長補佐
2	管 理 員	はし ば ま み 橋 場 真 美	女	石川県国際交流課 主任主事

団 員

NO.	学 校	氏 名	性別	学年	役 割
1	金 沢 錦 丘 高 校	あお き さや か 青 木 彩 華	女	2年	リーダー
2	金 沢 大 学 附 属 高 校	あり よし の あ 有 吉 希 生	男	1年	生活・交流係
3	北 陸 学 院 高 校	い なみ もも か 井 波 萌 々 果	女	2年	サブリーダー
4	金 沢 二 水 高 校	とみ た あや こ 富 田 綾 子	女	2年	記録係

ロシア・イルクーツク州青少年交流事業（受入）

期間：令和元年7月21日(日)～7月28日(日)

ロシア・イルクーツク州の豆知識

- 位 置
東シベリアの南部に位置し、クラスノヤルスク地方、トゥーバ共和国、ブリヤート共和国、サハ共和国、チタ州と接している。
- 面 積
77.5万km²
- 人 口
約240万人
- 州 都
イルクーツク市
- イルクーツク州ホームページ
<http://www.govirk.ru/>（ロシア語）



Irkutsk Oblast Russia~
~Ishikawa Japan

日本への旅

ロシア・イルクーツク州訪問団 団長
イルクーツク州教育局
次長 エヴゲニー・トルノフ

小さな夢がありました。それは、近くて遠い東洋の国へ行くというものでした。日本について知るようになったのは、私たち家族の元へ日本から生徒がやってきたことでした。

私はイルクーツク州教育局で働くようになるよりもずっと前に石川県とイルクーツク州の交流プログラムについて知っていました。昨年、日本からの生徒を受け入れる機会があるということが分かったときは、私と妻はすぐに賛成し、愛佳と萌々果という二人の可愛い日本の女の子が私たちの家にホームステイすることになりました。バイカル湖へ旅行に出かけたこと、車の窓から馬が見えたこと、草原でのピクニック、バイカル湖を背に写真を撮ったこと、シベリアの森の中にある別荘へ行ったこと、そのほかロシアのサモワールで沸かした紅茶を飲んだり、一緒に水餃子を作ったりしたことは忘れられない時間となりました。愛佳と萌々果は社交的で親切で、愛嬌のある女の子でした。

一年が経過し、今度は私が日本へ行くことになり訪問を心待ちにしていました。まず初めに驚いたのが日本まであっという間に到着したことでした。日本という国は、遠くて違う「惑星」と思っていたのに、なんて近いのだろうと思いました。東京の夜はまるで映画のようでした。そこは、ネオンが輝き、電光掲示板と自動改札機のある地下鉄があって、周りには映画でしか見たことのないような多くの人であふれていました。それからカフェで夕食を取り、パンダの可愛い顔をしたパンを子どもたちは喜んで食べていました。ホテル、特徴的な朝食、新幹線が印象に残りました。そして新幹線は、とてもモダンで速く、見た目はカモの顔のようでしたが、その技術に驚きました。

それから、石川県では色々な人に会い、色々な場所へ行きました。学校での輪島塗体験や和太鼓体験、餅つき体験、夜にスーパーへ買い物に行ったことなど様々なことをしました。特筆したいのは、朝食についてです。お米しか見分けがつかない小さな皿に載っている食事を見ると、「これは食べられるの？これで満腹になるの？」と思いました。

特に忘れられない2つの出来事がありました。一つは、日本の田舎で一晩過ごしたことです。私たちが訪れた小さな町は美しく、周囲は木が生い茂っており、そこには愛想がよく、親切で世話好きな思いやりのある人たちがいました。囲炉裏で焼いた魚は美味しく、みんなで日本とロシアの歌を歌いました。これは忘れられない思い出です。

もう一つの出来事は谷本正憲石川県知事を表敬訪問したことです。石川県職員から知事表敬の進行を聞き、どのように知事室へ入り、どういう順番で着席し、どのように懇談するかを聞いたときは緊張しました。知事に迎えていただき、その温かみのある雰囲気のおかげで私たちはだんだん緊張がほぐれました。懇談では知事は石川県の素晴らしいところについて話をしてくださり、私たちには好きな日本食について詳しく尋ねられました。知事が生徒に加賀八幡起き上り人形を手渡し、今後の人生で直面する困難を恐れず、転んでも何度でも起き上って将来の目標に向かって進んでほしいと話をしてくださいました。

日本での最大の発見は、そこに住む人々です。私たちが出会った人は、優しく社交的で思いやりがあり親切でおもてなしの心を持った人たちでした。そして彼らは自分たちの伝統を大切に、環境に対して責任ある行動をとり、友人をよく思いやるそんな人たちでした。

交流の思い出



金沢駅到着



いしかわ動物園 (バイカルアザラシと)



いしかわ動物園



手焼きせんべい体験



ひがし茶屋街散策



手焼きせんべい体験



山中温泉街散策



あやとりはし



加佐の岬散策



加賀フルーツランドで昼食



綿ヶ滝



弘法池



晶子染め体験



晶子染め体験



輪島キリコ会館



記念撮影（輪島高校）



輪島塗体験（輪島高校）



和太鼓体験（輪島高校）



輪島塗体験（輪島高校）



記念撮影（輪島高校）



餅つき体験（春蘭の里）



春蘭の宿で記念撮影



餅つき体験（春蘭の里）



春蘭の宿で夕食



のとじま水族館



千里浜なぎさドライブウェイ



知事表敬



県庁訪問



浴衣着付け体験



兼六園



翼OGとの交流（ブリヌイ作り）



翼OGとの交流（ブリヌイ作り）



翼OGと記念撮影



ホストファミリー対面式



ホストファミリー対面式



ホストファミリー対面式



ホストファミリー対面式（歌の披露）



ホームステイ（石田さん）



ホームステイ（上谷さん）



ホームステイ（中村さん）



ホームステイ（井波さん）



ホストファミリーと記念撮影

日本への旅

イルクーツク市第11中等教育学校
ロジオン・ブロリ

私は21世紀石川少年の翼事業で日本へ行きました。3年前から日本へ興味を持っており、日本のことをよく知ることができるこのような機会に恵まれ信じられない気持ちです。あまりに嬉しくて言葉にできないくらいの気持ちになりました。日本という国は独特な国です。一つの国であるのに多様な植物や動物がいて、昔の美しさと現代の輝きがどうやってこのように調和しているのか分かりません。旅行前は日本に対する期待はやや高すぎるかなと思っていましたが、それは大間違いでした。期待していたことの10倍以上、色々なことを体験できました。特に注目したいのは、とても小さな町の外れでも信じられないくらい綺麗で、街の中心部でも自然が美しく、昔の建築物が魅力的なことです。日本という国が歴史ある国であることがわかります。

日本では、私たちは単なる観光地の見学だけではなく、日本の文化や生活習慣に触れられる体験ができました。限られた時間でしたが、色々な種類の料理を食べることができました。中には見慣れたものもあれば、今までに食べたこともない不思議なものもありましたが、どれも気に入り喜んでいただきました。私たちは多くの魅力的な場所を訪問しました。滝や動物園、水族館へ行き、田舎にも行ってその美しい様子を見て、さらにこの国に夢中になりました。また、農家民宿に泊まり、布団で寝ることもできました。その他、手焼きせんべいや餅つき、泥と緑茶を使った晶子染体験など様々な体験もできました。

そのほか、日本の学校を訪問し、そこで日本の生徒と交流し、輪島塗や和太鼓体験もしました。和太鼓の音が気に入りました。日本の学校とイルクーツクの学校の似ているところが一つも見つからなかったのがその違いに驚きました。生徒が学校の制服をきちんと着ているところも良いと思いました。

最後の2日は日本の家族と一緒に過ごしました。私がお世話になった家族はとても素晴らしい家族で私を本当の息子のように迎えてくださいました。両親のほか二人の子どもがいて、彼らはとても上手に英語を話

しており、私には少し日本語を教えてくださいました。私を迎えるとすぐに銭湯にいき、息子の光縁君とはお互いの趣味が一緒ですぐに打ち解けました。彼はサッカー、バスケットボール、テレビゲームなどが好きで、私もそれらが好きだったので翌日はテレビゲームとバスケットボールを楽しみました。とても美味しいお寿司をいただき、サイエンスヒルズこまつやイオンモールに行きました。イオンモールは今までに見たこともない大きさのショッピングモールでした。色々なことをして、それからまた家に戻りボードゲームを楽しみました。

日本は素晴らしい国であり、11歳の頃から好きになり、いつかそこで暮らし、働くことを夢見ていました。今回の訪問で目にした日本の美しさ、人々の優しさは決して忘れません。5年後に、言語を習得した上で日露関係の改善につながる将来の明確な計画を持って再び日本へ戻ってくることをここに誓います。このような日本への訪問プログラムに参加できるのはおそらく人生に一度きりのことなので、とても嬉しく思っており、今回の訪問は今後の私の進路に影響を与えてくれました。



日本について

イルクーツク市第9中等教育学校
グレップ・イパチエフ

日本への旅行は忘れられないものになりました。そこは、新しい独特な文化を持つ国で私たちが温かくもてなしてくださいました。忘れられない経験は東京から始まりました。新幹線での移動もすばらしく、文化体験や動物園への訪問も楽しかったです。日本の学校を訪問し、その他様々な場所へ行き、どれもとても興味深かったです。ホームステイでは日本の生活や習慣に触れることができ、温かい気持ちになりました。日本の自然にも感銘を受けました。

日本への旅を終えて

イルクーツク市第14中等教育学校
クリスティーナ・ストラウチニシュ

日本への旅で私は色々な気持ちになりました。日本への訪問準備では、日本の文化について情報を集めました。実際に訪問し私の知識は大きく変わりました。最も印象に残ったのは、日本のおもてなしと友好的な雰囲気でした。滞在中は、私たちが快適に過ごせるように石川県の職員が同行、お世話をしてくださり、それがとても嬉しかったです。ホームステイでは、言葉の壁があるにも関わらず、本当の家族のように親しくなりました。さらに、日本の文化、生活の仕方、友人への態度、仕事への取り組み方に驚きました。日本人と交流して色々勉強になりました。海や綺麗な街並み、美術館など訪問した場所はどれも素晴らしかったです。特に輪島キリコ会館は印象に残っています。日本人がこれほど大々的に祭りを祝うとは思いませんでした。また、今までこれほど様々な料理を食べたことがなく、日本の料理が多彩であることがわかりました。私がホームステイでお世話になった家族はとても温かく私を迎え入れてくださいました。今でもホームステイで過ごした日々を思い出します。本物の温かな雰囲気がそこにはありました。

まさに心に届いた旅

イルクーツク第47中等教育学校
クセニヤ・トルノワ

私は今回の日本への訪問をとっても楽しみにしていました。今回参加した9名の生徒は愉快で、活発で、社交的で親切で、本当に様々な性格の生徒たちが集まりました。日本語を勉強する生徒もいれば、日本の伝統や文化について情報を集める生徒、日本へ持って行くお土産を準備する生徒もいました。実際の旅行よりもずっと前に旅行の準備は始まりました。私たちはすぐに親しくなり、共通点を見つけ、初めて訪れる日本に対する期待や印象について意見を交わしました。

飛行機で到着した東京の印象は鮮明なものとなりましたが、いつかまた戻ってきたいという気持ちを抱えながら、ここからあつという間に離れ、地方の金沢に向かいました。新幹線はとても速く、あつという間に金沢に到着しました。そこは自然が美しく、青空が広がり、綺麗な街並みもあって、人々の笑顔があふれていました。もしもあなたが、日本人は勤勉でそれほど社交的ではなく、日本には機械があふれ、技術が発達した国だと思っているのであれば、それは間違いです。この国は未来の国なのです。ここでは、みんながみんなのために幸せを分け合っています。そして個人が環境や自然、故郷のことを気にかけるのは自分しかいないということをはっきりと認識しており、自らの行為に責任を持ち、伝統を敬い、互いを気にかけています。そして、ペットボトルを再利用し、ごみを分別し、ペットのフンを片付けるのです。日本人の自国への愛情は些細なことに現れますが、このような些細なことが実はこの国の繁栄の元となっているのです。

日本での滞在は短期間でしたが、農家民宿に滞在したほか、手焼きせんべいや餅つき体験、温泉や滝へ行くこともできました。岬からの眺めは素晴らしく、日本海は夏の暑さをしばらく忘れさせてくれました。動物園と水族館へ行き、かわいいレッサーパンダやジンベイザメを見て嬉しくなりました。県庁での知事表敬では、私たちが温かく迎えてくださったことへのお礼と日本の印象を知事にお話しできました。

もしも、最も印象に残ったことを何か一つ教えてほしいと聞かれたら、私は答えることができません。な

ぜなら、毎日が忘れられないものであり、温かく幸せな思い出となったからです。今回の旅には、ショッピングや綺麗な写真よりももっと貴重なものがありました。それは、昨年石川県からイルクーツク州を訪問した生徒で当時親しくなり、その後会えずにとっても寂しく思っていた生徒との待ちに待った再会でした。私たちはSNSを活用し、お互いに連絡を取り合い、音信不通にならないように親交を深めてきました。滞在中に組み込まれているホームステイプログラムは20年以上続いており、ロシアと日本の生徒が互いの国の文化や習慣等について知る機会になり、新たな友達を見つけられるものです。昨年、日本の生徒が私たちの家にホームステイをしたのと同じように今度は私たちが日本でホームステイをしました。当初の不安や言葉の壁はすぐに無くなり、私たちは居間に座ってお茶を飲みながら好きな映画や歌手、将来の計画などについてお喋りをしました。そうするうちに、私たちに共通点があることがわかりました。友達と会って、学校へ行き、文化活動やスポーツに励み美味しいものを食べて一緒に笑うのです。それなのに、どうして世界には争いが起こり、お互いを理解し合えないのだろうと思います。現実には、日本の友人が微笑みながら、ロシアでの滞在がいかに素晴らしかったか思い出し、自国の祭りについて話をしているのです。このような相互派遣プログラムを通して、私たちはこの大きな地球に住んでいて、それぞれ異なる言葉を話し固有の習慣はあるものの、同じ人間であるということが分かります。人は愛したり、間違いをしたり、自分探しをしたり、掲げた

目標を達成したり、泣いたり笑ったり、新しい一日を喜んだり、そんなことをするのは、最も大事なことは、私たちが自分たちの住む世界を気にかけて、森や生き物、環境を守ることです。未来は今日から始まっているのです。このことを忘れてはいけないと思います。

この一週間は私たちに新しい知識を与え、今後の人生で忘れられない体験となりました。この旅が私たちの人生を変えました。あれこれ考えるのではなく、やってみることが大事です。日本という国からまだまだ学ぶところがあると思うのでまたこの国に帰ってきたいと思います。もしかするとこれを読んでいる誰かが家族や友人を連れて日本へ行こうと思ひ、逆に全く興味を持たない人がいるかもしれません。しかし、これを読んでいる方は、心が満たされ幸せになりたいと思っている人だと思ひます。心に足りないものが得られる国を皆さんが見つけれられることを祈っています。



令和元年度

「21世紀石川少年の翼」(ロシア・イルクーツク州訪問団受入) 日程

管理員2名/団員9名

	月 日	時 刻	日 程	宿 泊 先
1 日 目	7月21日 (日)	12:40 18:40 19:40 21:30 22:30	イルクーツク空港発 S76341 (現地時間) 成田空港第2ターミナル着 成田空港第2ターミナル発 夕食 ホテル着	東京都内
2 日 目	7月22日 (月)	8:42 11:06 12:00 13:30 15:20 16:20 18:00	上野駅発 (北陸新幹線かがやき 505号) 金沢駅着 昼食 いしかわ動物園 手焼きせんべい体験 (北陸製菓株) ひがし茶屋街 宿舎着	石川県青少年 総合研修センター
3 日 目	7月23日 (火)	10:30 12:00 13:40 14:30 16:40 18:30	山中温泉街 昼食 加佐の岬 晶子染め体験 (柴山潟) 綿ヶ滝・弘法池 宿舎着	石川県青少年 総合研修センター
4 日 目	7月24日 (水)	10:45 12:00 13:00 16:00 17:00	輪島キリコ会館 昼食 学校訪問 (輪島高校) (輪島塗・和太鼓体験) 千枚田ポケットパーク 餅つき体験 (春蘭の里)	春蘭の里
5 日 目	7月25日 (木)	10:30 12:00 13:30 14:30 18:30	のとじま水族館 昼食 千里浜なぎさドライブウェイ イオンモールかほく 宿舎着	石川県青少年 総合研修センター
6 日 目	7月26日 (金)	10:00 11:00 12:00 13:30 16:00 19:00	知事表敬 兼六園・金沢城公園 昼食 浴衣着付け体験 (国際交流ラウンジ) 少年の翼OGとの交流会 (プリヌイ作り) ホストファミリー対面式	ホームステイ
7 日 目	7月27日 (土)	終 日	団員: ホームステイ 管理員: 県内視察	ホームステイ
8 日 目	7月28日 (日)	11:30 12:30 13:00 14:35 15:55 19:30 23:55	ホームステイ先から集合 小松空港着 昼食 小松空港発 ANA3124 成田空港第1ターミナル着 成田空港第2ターミナル発 S76342 イルクーツク空港着 (現地時間)	

令和元年度
「21世紀石川少年の翼」(ロシア・イルクーツク州訪問団) 名簿

管 理 員

NO.	区 分	氏 名	性別	所 属
1	団 長	エヴゲニー・トルノフ	男	イルクーツク州教育局次長
2	管 理 員	イリーナ・レベデワ	女	イルクーツク州教育局 就学前・普通教育課アドバイザー

団 員

NO.	学 校	氏 名	性別	ホームステイ先
1	イルクーツク第47中等教育学校	クセニヤ・トルノフ	女	石 田 愛 佳
2	イルクーツク市第14中等教育学校	クリスティーナ・ストラウチニシュ	女	井 波 萌々果
3	イルクーツク市ロシア鉄道 第36中等教育学校	イヴァン・ミハイロフ	男	岩 田 隼 和
4	イルクーツク市第9中等教育学校	グレップ・イパチエフ	男	上 谷 奏
5	イルクーツク第47中等教育学校	ゲオルギー・ピイトキン	男	
6	イルクーツク市第11中等教育学校	ロジオン・プロリ	男	上 谷 光 縁
7	イルクーツク市第19中等教育学校	ダリヤ・コルネエワ	女	中 村 木結芽
8	イルクーツク市第3中等教育学校	アリーナ・クレフスン	女	
9	イルクーツク市第3中等教育学校	アレクサンドラ・ベプリコワ	女	橋 彩 聖

韓国・全羅北道青少年交流事業（受入）

期間：令和2年1月17日(金)～1月22日(水)

韓国・全羅北道の豆知識

- 位置
朝鮮半島南西部に位置し、ソウルから約240kmの距離
- 面積
面積は8,067km²
- 人口
約182万人
- 地方行政区域
6市、8郡
- 道庁所在地
チョンジュ
全州市
- 全羅北道ホームページ
www.jeonbuk.go.kr/jpn/index.jeonbuk（日本語）

*Jeollabuk-Do Korea~
~Ishikawa Japan*

代表あいさつ

お互い顔を合わせて！ 未来へ向けた第一歩

韓国・全羅北道訪問団

全州權暎中学校教諭

チョ・ウンキョン

私達は、2020年1月17日から22日まで石川県で出会い、平和な時間を過ごしました。平和とは「お互い友達になること」だと思います。

5泊6日の間、私達權暎中学校の5人の生徒、そして南原龍北中学校の3人の生徒達と過ごした時間！近くて遠い国、日本を体験しながら感じたことはそれぞれ違うと思います。私は韓国と日本の青少年達が、互いに向き合って話すことが未来のための歩みだと信じています。

日本での最初の日程は、石川県庁で谷本正憲知事への表敬から始まりました。対話の内容は、全羅北道との深い縁や青少年交流の重要性、両国の文化交流などが中心でした。私達は、明け方に全羅北道を出発した強行軍でしたが、生徒全員がきらきらした瞳と礼儀正しい態度で臨むのが誇らしかったです。

日本に着いた金曜日と土曜日はホームステイが用意されていましたが、日本のホストファミリーが生徒達を温かく迎えてくれました。外国でのホームステイは、その国の文化を最も身近に体験できる大変貴重な時間です。例え言葉がうまく話せなくても、意思疎通は可能で友達になれることは、ホストファミリーと別れる日の生徒達の涙で確認できました。幼い生徒達を息子、娘のように思う心は、韓国も日本の親も皆同じです。

金沢は江戸時代、徳川幕府に次ぐ2番目に大きな大名だった前田家の統治が300年間平和に続き、日本の金箔の99%を占める金箔工芸、染色技法などの伝統文化と、和菓子のような食文化にいたるまで豊かで格調高い文化が感じられ、他方では280年の伝統を誇る近江町市場の新鮮な海産物とコロッケ、ウニ、カキ、おでん、果物などの庶民的な雰囲気が満載でした。

日本の三名園に数えられる兼六園は、松の森、湖が可愛らしく、そして美しく広がっていて、庭園の向こうの金沢城を見れば、屋根まで白い姿とその広い城跡は、領主の勢力と富を表すのに十分でした。

今回の日程の一番のハイライトはもちろん、両国の生徒の交流でした。夏ではなく冬に来たため、泉中学校の3学期目の姿を詳しく見ることができ、生徒達は一緒に英語の授業のグループ活動をしました。英語の単語を並べながらお互いを紹介し、質問し、教え合う姿を見ると実にほほえましかったです。私が全州は仁川（インチョン）空港に行くまで3時間余りですが、韓国と日本までの飛行時間は1時間30分、それだけ近いと言ったら、生徒達は信じられないという反応を見せました。

次は韓国の生徒達の発表時間で、講堂で泉中学校の2年生全員の前で、パンソリ（韓国の伝統的な歌）の「愛の歌」をチャング（打楽器）のリズムに合わせて歌ったら、とても不思議がり、盛り上がりました。続いて伝統的なコンキノリ（お手玉遊び）を試演したら日本の生徒達が皆次々に参加して、コンキを落としては、再挑戦していました。そしてK-POPの紹介の時は歌に合わせて生徒達が肩を揺らし、やっぱり韓国のアイドルは世界的なスターでした。最後のパフォーマンスは、韓国生徒全員が「美しい世界」を手話で贈りました。「私たち一緒に作りましょう」「美しい世界～」というリフレインを力強く叫びながら発表は大盛況に終え、その次は日本の生徒達の部活動である吹奏楽部の練習を見て、バスケットボール、野球部のメンバーとは一緒にプレイするなど、とても楽しい時間を過ごしました。

韓国の多くの生徒が民間の塾に直行するのは異なり、日本の生徒は教科時間後、このように体育や音楽活動を行います。長いスカート、一律の室内用スニーカーと黒い制服の男女生徒達の姿も、今日の韓国の生徒達の外見とは違っていました。

ある女子生徒は別れの際に涙を流しながら「とても別れるのが悲しいです。私は韓国の文化がとても好きなので、今日の交流会の時に韓国の友達が準備してくれて感動しました」と私の手をぎゅっと握りました。その生徒はBTSの歌も一緒に歌い、コンキノリにも参加した2年生でした。今もあの生徒の純粋な姿が鮮明に残っています。

泉中学校の先生や生徒達に帰国するとすぐに、感謝の気持ちを真心のこもった手書きの手紙で送りました。真心が伝わることを願います。

政治的利益と権力のために仲違いばかりしようとする人達に、真実に向き合い、友情を分かち合い、未来を描いていくことがより重要な視点です。両国が相互理解と交流を通じて共に発展していく隣人となれるように、韓日の青少年世代が手を取り合って進むことができる環境を作るのが、両国の大人たちがなすべき課題です。

青少年の交流のために、これまで以上に努力と誠意を尽くしてくださった全羅北道庁と石川県庁の担当者の皆様のおかげで無事に日程を終えました。その方々に心から感謝の気持ちを伝えます。

そして愛する私の生徒達！元気にそして一生懸命、一緒に過ごせて幸せでした。

交流の思い出



小松空港到着



サイエンスヒルズこまつ



知事表敬



知事表敬



知事表敬



長町武家屋敷跡



長町武家屋敷跡



ホストファミリー対面式



ホストファミリー対面式



ホストファミリー対面式



ホストファミリー対面式



ホームステイ (山瀬さん)



ホームステイ (水上さん)



ホームステイ (越野さん)



ホームステイ (岩田さん)



ホームステイ (奥田さん)



ホストファミリーとお別れ



箔一（金箔貼り体験）



箔一（金箔貼り体験）



翼OBOGとの交流



翼OBOGとの交流



県立歴史博物館



兼六園



金沢城公園



のとじま水族館



のとじま水族館



のとじま水族館



県国際交流ラウンジ



夕食 (お好み焼き)



ひがし茶屋街



県国際交流ラウンジ



泉中学校訪問



泉中学校訪問



泉中学校訪問



泉中学校訪問



泉中学校訪問



泉中学校訪問



泉中学校訪問



泉中学校訪問



泉中学校訪問



夕食 (ビュッフェ)

より広い世界に飛び出すことができた私

全州権暎中学校2年 ジョン・ウンス

私たち権暎中学校5人と、南原の龍北中学校3人の友達は韓日文化交流訪問を1月17日から22日、5泊6日の間行いました。正直に言うと、初めての文化交流に非常にときめいていましたが、両親なしで行く最初の海外旅行なので怖かったです。さらに最近、韓国と日本との関係が悪化している状況でホームステイをすることもあり、緊張感は2倍でした。さらに私たちのような若者が「政治は政治、民間交流は継続しなければならない」という理由で行くこともあり、何か私たちが大韓民国を代表するような負担も感じました。

日本では、2日間のホームステイを通じた文化体験と学習の時間があり、日本の歴史的に有名な場所や代表的な遺跡を回り、歴史に関する知識を広げる時間と日本の中学生との交流を行いました。

1日目、日本に着いてから小松で有名な科学館を訪れました。私達はそこで様々な実験を見て、なぜそういう現象が起こるのかを考え、相談をして結論を導き出すのが面白かったし、同時に、8人の生徒が親くなる出発点となりました。魔法のような科学を私達に見せてくれた先生のおかげで、「科学という科目は難しいことがない」ということを感じ、とても尊敬しました。特に、科学館を見ながら、日本は宇宙とAIのような分野に関心が高いことが分かりました。韓国では、知識中心の勉強方法を主導していますが、日本では実験中心と未来志向的なものを学ぶようだと考えました。韓国もこのような日本の教育方法を用いれば、未来のことだと考えていたことが、今頃すでに実現できていた可能性があるという気がしました。そして知識的な部分だけを求めていた自分のことも反省しました。

その後、私たちはラーメンを食べて、石川県知事にお会いし、お話をしました。私は生徒代表として知事の前で、日本語で感謝の挨拶を行いました。その時は非常に震えましたが、その日まで練習してきたおかげで、うまくできたようでした。知事が私を見て「よくできていた」と褒めてくださり、プレゼントもいただいたことは、本当に忘れられないでしょう。また、日本の新聞に私たちが出ていることもとても良かったです。日本に初めて来て緊張していた私の心の震えは消えて、喜びと幸福でいっぱいになったようでした。

私達は知事との出会いの後、侍が住んでいた通りと

家を見に行きました。私が想像していた侍の家は、かっこよくて、高い建物が密集していて、普通の人は違うものだと思いますが、そうではありませんでした。家も普通の建物より低く平らで、通りは自分の命を守りながら、敵と戦うために、狭く曲がりくねって行きました。侍が住んでいた家を見て、どうして藁で家の周りを囲んでいるのか疑問に思いました。その理由は、この地域が冬には雪が降るので、雪が塀を傷つけるのを防ぐためにあるのだと知りました。この通りを一目見て、美しく、木が多いので写真を撮るのに良い場所だと思いました。そのため、昔、侍が戦った場所であると知った時は驚きました。

最後に、私たちは近江町市場へ行きました。韓国の市場は海産物だけでなく、さまざまな食べ物や娯楽施設などがありますが、日本は取れたての魚介類でいっぱいだったので、生臭いにおいが少し強かったです。しかし、これも日本の文化の1つだと考えて、私は市場をあちこち見てまわりました。韓国の市場で家族と串に刺さったイチゴを食べて歩いた思い出がよぎりました。

そして最後にホームステイの家族に会いました。生まれて初めてのホームステイなので、なぜか分からないが、興奮して浮き立ちました。私が2泊3日の間に滞在した家族は、ご両親と結子でした。最初は、私たちがぎこちなくて、ご飯だけ食べていましたが、お母さんがぎこちなく話かけてくれたので、共通点やお互いの好みも聞き合いながら時間を過ごしました。ホストファミリーの家は金沢駅の近くで、家に入る門が3つなので慌てましたが、どのように入り出てくるのかから、順番に生活に必要なことを詳しく教えてくれてとても感謝しました。結子とは、夜遅くまで明日何をすればいいのかを話しながら、眠りにつきました。予想していたよりも結子が韓国語と英語をよく話することができて驚きました。なぜなら、日本に行く前に、最も心配したのがコミュニケーションだったからです。

2日目、朝ごはんを一緒に食べている時、私は日本の食事マナーについて学ぶことができました。韓国とは異なり、日本はご飯や器を持って食事をしており、箸も韓国とは違う感じなので少し距離感が感じられました。日本のキムチは、韓国とは違って、あまりにも甘かったので、「これがキムチ？」と思いました。私たちは無料のバスでドンキホーテに行きました。韓国とは異なり、バス代が無料だったし、運転席の位置が韓

国は左なのに、日本は右だったので驚きました。バスから降りて信号を渡るとき、手動式で人が押せば信号が変わるという点も驚きました。その他にも驚いて不思議な点がとても多かったが、他の国の文化を尊重しなければならないという考えで、それを表現せずに時間を過ごしました。ショッピングが終わった後、私たちは金沢駅に行って時間を過ごしましたが、思ったよりもとても大きくて、内部がとてもきれいでした。金沢駅では、お母さんが私にいくつかのクッキーときれいでかわいい筆記具を買ってくださいました。結子と私はお揃いで、かわいいナマケモノの筆箱を買って、お互いを忘れないようにしました。家に帰ってきて、結子が好きで日本のアニメと韓国のK-POPのコンサートを見ながら一緒に寝ました。3日目、いつもより早く起きて朝食を食べ、荷物を整理した後、金沢を歩き回りました。金沢を歩き回りながら都市にもかかわらず、きれいで整頓された通りがとても良かったです。来る前に「どうして首都圏に行かないで、聞いたこともない場所に行くのか?」と考えていた自分が恥ずかしくなりました。また金沢を歩き回り、どうして日本で人気のある場所であるかが分かってきました。車を止めて周辺を歩いていると、不思議でおいしいようなアイスクリームがあり、食べたくて足をとめました。それは金箔アイスクリームと呼ばれるものでした。このアイスクリームは、ソフトコーンの上に金箔がありあまりにも不思議で、前から食べてみたかったのです。ところが、価格がちょっと高かったので、試してみることができませんでした。しかし、ホストファミリーが買ってくださって、食べると本当においしかったです。しかし、最後までホストファミリーの方々にもらってばかりで申し訳ない気持ちが大きかったです。おいしく食べた後、結子が通う学校も行き、全州で準備してきたプレゼントもあげました。私は別れるのが嫌で、涙が浮かんできて気分が変でした。結子も泣いていたので、私が慰めました。バスが出発した後、ホストファミリーと離れてから、我慢していた涙が溢れました。もっとたくさん思い出を作っておけば良かったという後悔が残りました。

ホストファミリーと別れた後、昨年度に全羅北道に来た石川県の生徒と一緒に日本の箸作り体験をしました。作る方法を教えてくれる先生は日本語で説明していましたが、隣に座っている日本の友達が助けてくれたので、すぐに親しくなり、一緒に写真も撮り、冗談も言って遊びました。コミュニケーションがうまくい

かなくても、面白かったです。私は日本の友人に韓国語を教え、日本の友人から日本語を学び、さらに情が深まりました。本当に私が考えていた日本のイメージとは違って、本当に温かく優しい友人しかいませんでした。短い時間でしたが、いつも笑顔で接してくれて、今でも、よく連絡をとりあっています。

4日目、歴史博物館を訪問しました。この博物館は3つの棟で構成され、歴史を知ることができ、直に体験することもできました。特にこの博物館は、大部分が赤いレンガで建てられていました。この博物館は、かつては陸軍の兵器庫で、第二次世界大戦以降は、金沢美術工芸大学として使われていました。私たちは、石川県と全羅北道が友好提携を結んだ縁で来県できましたが、県立歴史博物館も全州博物館と友好提携を築いていたことに驚きました。博物館の中で「行列」と呼ばれる作品を見ました。この「行列」という作品が最も印象深かったし、記憶に残りました。最も地位の高い人物とその下の人々の姿が描かれており、約2,000~4,000人あまりの人たちが一緒に行列になって歩いたと伝えられています。必ず歩いて行くのが原則で、約400kmを歩きました。一人がそれだけ移動するのに1週間かかるので、多くの人と一緒に移動すると2~3週間かかるということでした。私は一番地位の上の人は、楽に行くべきだと思ったので、一番多くの人担いでいた籠に乗っているかと思いましたが、そうではありませんでした。籠に乗ると、長い間その中に閉じ込められるため、閉鎖恐怖症など、多くの疾病にかかってしまうようでした。しかし、唐の宿駅制度のように医者は途中で輿に乗っても短い時間なので病気にかかりはしないとのことでした。

私たちは博物館で石川の歴史と文化を学んだ後、兼六園という大きな庭園に行きました。兼六園は日本の3名園の一つで南側は時間が経っていて、古い姿を持っている反面、北側は爽やかで明るい姿をしていました。特にこの庭園は冬には雪が素晴らしいと伝えられ、前田という名の領主が特に好きだったそうです。この庭園は、作庭当時は蓮池庭などと呼ばれていましたが、1759年の大火災で、その大半が失われたとされています。兼六園は宋時代の詩人が書いた洛陽名園記の中の文章を引用して宏大・幽邃・人力・蒼古・水泉・眺望の6つを兼備しているという意味で命名されたということでした。兼六園は、普段の学業で苦しかった私の気持ちを良くしてくれました。全州にはこんな大きな庭園がなくて残念でしたし、そのためか、

空気ももっと良いようでした。私達は冬に行ったので、花は見ることはできませんでしたが、300年以上過ぎた木と人工的でない自然の姿に魅了されたようでした。その後、私たちは金沢城に行きました。兼六園から10分もかかりませんでしたが、途中で休憩を取り、金沢城へ到着すると、私たちはその風景を見るやいなや感嘆するしかありませんでした。城もすごく大きくてきれいでした。金沢城は敵が侵入しにくい建物であり、長さが95mにもなる石垣が特徴でした。城の2階は人が住んでいるわけではなく、倉庫のみに使われていて訪問客の出入りが可能でしたが、私たちは時間上、行けなかったのが残念でした。赤い石と他の色の石が混ざっているため多彩で、屋根が白い理由は鉛が白に変わったからでした。重量が軽く、長い間使用するために、鉛を使用したとのことでした。そして、この地域は雷が多く、火災が発生しやすいそうで、天守閣は火災で消えたようでした。城を見回しながら私は玉泉院丸庭園がとてもきれいで良くて、韓国語で表現すると小さくてシンプルな庭園だと呼ばれるようでした。私がそこを歩き回りながら少し驚いたのは、石垣がほとんど非対称に建設されていたことです。その理由は敵の侵入を防ぐためだけでなく、視覚的な楽しみもある石垣であり、わざわざ尖っている石も使っていましたが、理由は城主が住んでいた場所に似合うよう、より難しい方法を追求して、そのように建てることになったそうです。私はその日、日本の歴史的な場所と文化的な観光地を回りながら本当に嬉しかったし、このような所を回り、体験しながらこのような知識を学ぶことができたことに感謝しました。

その後、私たちは水族館に行きました。とても広くて、私たちはそこでイルカショーを観ました。イルカショーはすごく素晴らしかったし、少し水が私の所へ跳ねましたがそれも面白かったです。魚を飼っている私にとってはいい機会だったようでした。その時まで重いテーマで色々と学び、知識を積み重ねていたところだったので、気楽にショーを観てペンギンたちと遊び、美味しいものを食べたことが記憶に残りました。最後にジンベイザメがご飯を食べるのを見ましたが、どれだけ口が大きいかと言えば、魚数十匹が一度に入っていて驚愕せざるを得ませんでした。最後にドクターフィッシュの水槽に手を入れて垢をとってもらい、きれいな気持ちで水族館を出ました。

夕食にお好み焼きを食べに行きました。私たちが行った店では、お好み焼きを自分で作って食べること

ができて、すごくおいしかったです。

5日目、私たちは日本の伝統衣装である着物を着てみました。着物を着てみたら腰のほうがつまみ張られて不便でしたが、一方で本当に日本人になったような気がしました。

そしてついに泉中学校を訪ねました。最初は多くの生徒たちが私たちに関心を持ってくれて、先に挨拶をしてくれて緊張しましたが、時間が経つにつれてありがたい気持ちになりました。そのため私も日本の友達に「会えて嬉しい」という表現を惜しみませんでした。

放課後に吹奏楽部の公演を鑑賞し、英語の授業を受けましたがとても楽しかったです。私達を歓迎してくれて本当に感動したし、日本の友達との友情も築けました。泉中学校の生徒数人とは今でも連絡をしており、その友達が3月頃、ソウルに来るときには一緒に遊ぶ約束までしました。

私たちは準備した手話発表とともにハンデルが書かれたキャンディーをプレゼントし、泉中学校からは「友情を育もう」という意味の水引をプレゼントされましたが、その水引は金沢で最も有名な特産物でした。ついに文化交流が終わりました。

人が過ぎ去ったことを懐かしむように、私もそうでした。5泊6日という短くて長い時間の間、私はホストファミリーともっとたくさん話して、より多くのことを学んだらもっと意味があったと思います。私は遠くて近い国である日本について否定的な認識を持っていましたが、来たあとに考えが変わりました。私は今回の旅行を一つの単語で整理しました。「本当に貴重な旅行」。日本との交流は私にとって本当に大きな経験であり、人生に大きく役に立つと思います。

石川県を訪れて

南原龍北中学校1年 ジョン・ユナ

1月17日（金曜日）

この日は全羅北道庁から仁川空港に行きました。午前2時50分までに行かなければならなかったので眠れなかったのですが、ドキドキして疲れは感じませんでした。2時間程飛行機に乗って小松空港に行きました。飛行機に乗っていた時には日本に行くという実感がありませんでした。ところが、小松空港への入り口にポスターが貼られていて、「進撃の巨人」のキャラクター達がいたので、日本にいるというのを感じました。

日本に来て初めて行った所は、「サイエンスヒルズこまつ」というところでした。そこではいろいろ実験みたいなものを見ました。一番不思議だったのはお茶の色が変わることでした。お昼にはラーメンを食べに行きました。とんこつラーメンを食べたのですが、量が思ったより多くて食べ切れませんでした。ラーメンを食べた後に、石川県の知事に会いに行きましたが、カメラが多すぎてびっくりしました。その時、生徒代表の挨拶もあったのですが、「私じゃなくてよかった」と思いました。

この後は武士の家と近江町市場という所を見学しました。武士の家の雰囲気はちょっと全州（チョンジュ）の韓屋村みたいな感じがして不思議でした。最後にホームステイ対面式をしましたが、わくわくし、緊張もしました。ホストファミリーには「優衣」という名前の子がいて、私と名前が似ていて不思議でした。

1月18日（土曜日）

この日は朝8時に起きてホストファミリーの家で朝ご飯を食べました。朝にはアニメで見たように、鮭の塩焼きといろいろなおかずを食べました。鮭の塩焼きは初めて食べたので不思議でした。朝ご飯を食べてゆいと水引というのを作りました。水引は紐を結んで作る工芸品でした。指輪とストラップを作りました。次に本屋に行きました。私が行った書店は3階建てで、1階には雑誌、3階には漫画と小説がありました。私は漢字がよく分からないのでマンガだけ買いましたが、韓国ではまだ売っていない本を買えて幸せでした。お昼にはホストファミリーと回転寿司を食べに行きましたが、ロボットがいて不思議でした。ご飯を食べて50分の距離のモールに行きました。そこでシャープペンとノートを買いましたが、ノートに描かれたキャラクターがすごく可愛かったです。ショッピングが終わって、近くの展望台のようなところに行きました。でも、まだ時間が早くて夜景が見えなかったです。それで写真を撮る時に明るさを低くして撮ったら、かなりきれいに撮れました。

1月19日（日曜日）

今日も8時に起きて、ホームステイの家族と色々な話をしました。話しているうちに昼ごはんを食べる時間になり、うどんを食べに行きました。昼食を食べて集合場所に行きました。ここでホームステイの家族と別れましたが、今度日本に行くときにはまた会いたい

です。次に車でいった所は金箔の博物館で、そこで金箔の箸を作りました。私はシンプルに作りたくて派手な柄を入れませんでした。思ったより金箔をたくさん使ったので片側は銀箔にしました。金箔体験が終わって、金箔アイスクリームを食べながら日本の友達と話をしました。しかし日本の友達の中に韓国語が上手な子がいて不思議でした。夕飯を食べてホテルに戻った後、ホテルの前にあるコンビニに行きました。そこで日本で買ったかったカップラーメンを買いました。

1月20日（月曜日）

朝起きてホテルで簡単に朝ご飯を食べて県立歴史博物館に行きました。そこで日本の伝統衣装を着ました。私の友達も一緒に着ましたが、すごく似合っていなかったです。その次に兼六園と金沢城というところも行きましたが、兼六園に33の橋があると聞いて、作る時にとんでもないほどのお金が必要だったかもと考えました。ランチにはカレーを食べました。最後にのどろ水産館に行きました。水族館の中にはこたつがありました。こたつの上にはみかんの模型がありました。模型の中にジンベイザメに関する話を書いてあって、とても新鮮だと思いました。夕食はお好み焼きと焼きそばを食べました。

1月21日（火曜日）

朝起きて朝ご飯を食べて国際交流ラウンジに行き、着物を着ました。着物は、帯という腰に巻く布をきつく締めたので腰が痛かったですが、それでもきれいでした。そしてひがし茶屋街に行きました。そこで友達とあちこち歩き回りました。昼食にはうどんを食べました。そして金沢市立泉中学校に行きました。そこで手話の発表をしました。しかし、何回かミスをしてしまい恥ずかしかったです。夕食は焼肉を食べました。ところが焼肉より他のものがもっと食べたくなって、肉よりデザートを多く食べてしまいました。

1月22日（水曜日）

この日は帰る日だったので朝早く起きましたが、最後の日だと思うと残念でした。1～2時間かけて韓国に帰ってきました。お母さんとお父さんに会えて嬉しかったです。日本にもっといたかったと思いました。

令和元年度
「21世紀石川少年の翼」(韓国・全羅北道訪問団受入) 日程

管理員3名/団員8名

	月 日	時 刻	日 程	宿 泊 先
1 日 目	1月17日 (金)	8:25 10:10 10:55 11:10 12:20 15:00 16:15 17:00 19:00	仁川空港発 小松空港着 小松空港発 サイエンスヒルズこまつ 昼食 知事表敬 近江町市場 長町武家屋敷跡 ホストファミリー対面式	ホームステイ
2 日 目	1月18日 (土)	終日	生徒:ホームステイプログラム 管理員:県内視察	ホームステイ
3 日 目	1月19日 (日)	午前 14:00 14:30 16:30 18:00 19:30	生徒:ホームステイプログラム 管理員:県内視察 ホームステイ先から集合 箔一箔巧館 見学・金箔貼り体験 (少年の翼OBOGとの交流会) ショッピング 夕食 宿舎着	金沢シティホテル
4 日 目	1月20日 (月)	9:00 9:30 10:30 12:00 14:30 18:00 19:30	宿舎発 県立歴史博物館 兼六園・金沢城公園 昼食 のとじま水族館 夕食 宿舎着	金沢シティホテル
5 日 目	1月21日 (火)	9:40 10:00 11:30 12:40 14:00 18:00 19:50	宿舎発 国際交流ラウンジ ひがし茶屋街 昼食 学校訪問(金沢市立泉中学校) 夕食 宿舎着	金沢シティホテル
6 日 目	1月22日 (水)	9:00 10:00 12:00 13:55	宿舎発 小松空港着 小松空港発 仁川空港着	

令和元年度
「21世紀石川少年の翼」(韓国・全羅北道訪問団)名簿

管 理 員

NO.	区 分	氏 名	性別	所 属
1	団 長	ソン・ヒョウオン	女	全羅北道国際協力課
2	管 理 員	チョ・ウンキョン	女	全州槿暎中学校 教師
3	管 理 員	オ・ヘジン	女	南原龍北中学校 教師

団 員

NO.	学 校	氏 名	性別	ホームステイ先
1	南原龍北中学校	ジョン・ユナ	女	水 上 優 衣
2	南原龍北中学校	ユン・ヨンイン	女	
3	全州槿暎中学校	ジョン・ウンス	女	越 野 結 子
4	全州槿暎中学校	キム・ギョンハン	男	岩 田 隼 和
5	全州槿暎中学校	ハン・スンフン	男	奥 田 葉 月
6	南原龍北中学校	オ・セフン	男	
7	全州槿暎中学校	キム・オンユ	男	山 瀬 優 雅
8	全州槿暎中学校	ソン・ジホ	男	

「21世紀石川少年の翼」これまでのあゆみ

韓国

回	年 度	派 遣			参加人数	受 入	
		日 程	団 長	副 団 長		日 程	参加人数
1	昭和61年度	8月4日(月)～8月8日(金)	中西知事	吉田教育次長	100	—	—
2	昭和62年度	8月3日(月)～8月7日(金)	杉山副知事	善 局 長	100	—	—
3	昭和63年度	8月5日(金)～8月9日(火)	中西知事	吉田参与	125	—	—
4	平成元年度	8月9日(水)～8月14日(月)	中西知事	吉田参与	92	7月27日(木)～8月2日(水)	61
5	平成2年度	8月8日(水)～8月13日(月)	杉山副知事	山田局長	90	7月26日(木)～7月31日(火)	110
6	平成3年度	8月7日(水)～8月12日(月)	肥田教育長	柏木局次長	110	7月25日(木)～7月30日(火)	110
7	平成4年度	8月5日(水)～8月10日(月)	中西知事	寺西局長	110	7月23日(木)～7月28日(火)	98
8	平成5年度	8月5日(木)～8月10日(火)	太田副知事	佐藤県参事	110	7月22日(木)～7月27日(火)	118
9	平成6年度	8月5日(金)～8月10日(水)	谷本知事	山岸局長	111	7月27日(水)～8月1日(月)	164
10	平成7年度	8月6日(日)～8月11日(金)	山岸局長	—	104	7月26日(水)～7月31日(月)	114
1	平成8年度	8月4日(日)～8月9日(金)	竹部教育参事	越島局次長	75	7月24日(水)～7月29日(月)	86
2	平成9年度	8月3日(日)～8月8日(金)	中山教育次長	—	62	7月23日(水)～7月28日(月)	85
3	平成10年度	8月9日(日)～8月14日(金)	北川局長	—	71	7月29日(水)～8月3日(月)	77
4	平成11年度	8月8日(日)～8月13日(金)	倉本教育次長	—	66	7月28日(水)～8月2日(月)	70
5	平成12年度	8月6日(日)～8月11日(金)	上乘教育次長	—	50	7月26日(水)～7月31日(月)	50
6	平成13年度	8月8日(水)～8月13日(月)	村井教育次長兼学校指導課長	—	47	7月25日(水)～7月30日(月)	50
7	平成14年度	8月7日(水)～8月12日(月)	鹿野教育センター所長	—	37	7月24日(水)～7月29日(月)	41
8	平成16年度	7月23日(金)～7月28日(水)	金田教育次長	—	18	8月6日(金)～8月11日(水)	20
9	平成17年度	7月22日(金)～7月27日(水)	太田課長	—	14	8月3日(水)～8月8日(月)	17
10	平成18年度	8月4日(金)～8月9日(水)	豊原課長	—	16	7月26日(水)～7月31日(月)	20
11	平成19年度	7月25日(水)～7月30日(月)	井川寺井高校長	—	14	8月8日(水)～8月13日(月)	12
12	平成20年度	8月8日(金)～8月13日(水)	三国局長	—	15	7月30日(水)～8月4日(月)	15
13	平成21年度	8月19日(水)～8月24日(月)	田西課長	—	23	—	—
14	平成23年度	8月5日(金)～8月10日(金)	北村次長	—	13	—	—
15	平成24年度	—	—	—	—	8月8日(水)～8月13日(月)	12
16	平成25年度	7月26日(金)～7月31日(水)	木島課長	—	13	—	—
17	平成26年度	—	—	—	—	7月23日(水)～7月28日(月)	13
18	平成28年度	7月29日(金)～8月3日(水)	戒田課参事兼課長補佐	—	8	—	—
19	平成29年度	—	—	—	—	8月4日(金)～8月9日(水)	12
20	平成30年度	7月27日(金)～8月1日(水)	北川課参事兼課長補佐	—	12	—	—
21	令和元年度	—	—	—	—	1月17日(金)～1月22日(水)	8

※1 平成7年度までは、「日韓少年交流事業」として実施 ※2 交流団体は、昭和61年度～平成9年度は「世界文化交流協会」、平成10年度～は「韓国青少年連盟」、平成16年度～は「韓国青少年全北連盟」、平成28年度～は「全羅北道片国際協力課」
 ※3 全羅北道への派遣は平成12年度から、受入は平成16年度から実施 ※4 平成15年度は新型コロナウイルス（SARS）の影響により中止
 ※5 平成21年度は新型インフルエンザの影響により受入を中止 ※6 平成27年度は中東呼吸器症候群（MERS）の影響により中止

中国・江蘇省

回	年 度	派 遣			参加人数	受 入	
		日 程	団 長	副 団 長		日 程	参加人数
1	平成8年度	8月5日(月)～8月10日(土)	谷本知事	山岸局長	20	7月23日(火)～7月28日(日)	8
2	平成9年度	8月9日(土)～8月14日(木)	山岸局長	—	20	7月23日(水)～7月28日(月)	8
3	平成10年度	8月16日(日)～8月21日(金)	中村教育次長	—	20	7月29日(水)～8月3日(月)	8
4	平成11年度	8月15日(日)～8月20日(金)	中西局長	—	12	7月28日(水)～8月2日(月)	8
5	平成12年度	8月13日(日)～8月18日(金)	東局次長	—	20	7月26日(水)～7月31日(月)	8
6	平成13年度	8月5日(日)～8月10日(金)	中西局長	—	19	7月25日(水)～7月30日(月)	8
7	平成14年度	8月4日(日)～8月9日(金)	大井局長	—	16	7月24日(水)～7月29日(月)	8
8	平成16年度	7月24日(土)～7月28日(水)	竹中次長	—	16	8月5日(木)～8月10日(火)	8
9	平成17年度	7月24日(日)～7月29日(金)	山本国際交流協会専務	—	5	8月2日(火)～8月7日(日)	10
10	平成18年度	8月3日(木)～8月8日(火)	山口県参事	—	5	7月20日(木)～7月25日(火)	10
11	平成19年度	7月24日(火)～7月29日(日)	豊原課長	—	8	8月7日(火)～8月12日(日)	8
12	平成20年度	8月3日(日)～8月8日(金)	岩本学校指導課長	—	5	7月24日(木)～7月29日(火)	8
13	平成21年度	8月20日(木)～8月25日(火)	八十田七尾高校長	—	6	8月6日(木)～8月11日(火)	8
14	平成22年度	—	—	—	—	8月19日(木)～8月24日(火)	8
15	平成23年度	7月28日(木)～8月2日(火)	田西国際交流協会専務	—	10	—	—
16	平成24年度	—	—	—	—	7月26日(木)～7月31日(火)	8
17	平成25年度	8月1日(木)～8月6日(火)	田西国際交流協会専務	—	4	—	—
18	平成26年度	—	—	—	—	7月24日(木)～7月29日(火)	8
19	平成27年度	7月30日(木)～8月4日(火)	藤村課長	—	5	—	—
20	平成28年度	—	—	—	—	7月21日(木)～7月26日(火)	8
21	平成29年度	8月3日(木)～8月8日(火)	戒田課参事兼課長補佐	—	8	—	—
22	平成30年度	—	—	—	—	7月26日(木)～7月31日(火)	8
23	令和元年度	7月25日(木)～7月30日(火)	戒田課長	—	8	—	—

※1 交流団体は、「中国江蘇省人民対外友好協会」 ※2 平成15年度は新型コロナウイルス（SARS）の影響により中止

ロシア・イルクーツク州

回	年 度	派 遣				受 入	
		日 程	団 長	副 団 長	参加人数	日 程	参加人数
1	平成10年度	-	-	-	-	7月29日(水)～8月5日(水)	9
2	平成11年度	8月13日(金)～8月20日(金)	大蔵教育次長	-	8	-	-
3	平成12年度	-	-	-	-	7月21日(金)～7月28日(金)	11
4	平成13年度	8月17日(金)～8月24日(金)	東局次長	-	8	-	-
5	平成14年度	-	-	-	-	7月19日(金)～7月26日(金)	10
6	平成16年度	7月31日(土)～8月7日(土)	新宅局長	-	9	-	-
7	平成17年度	-	-	-	-	7月30日(土)～8月6日(土)	10
8	平成18年度	7月29日(土)～8月5日(土)	上田金沢泉丘高校長	-	8	-	-
9	平成19年度	-	-	-	-	8月5日(日)～8月12日(日)	8
10	平成20年度	8月4日(月)～8月11日(月)	向峠次長	-	8	-	-
11	平成22年度	8月1日(日)～8月6日(金)	良澤課参事兼課長補佐	-	8	-	-
12	平成23年度	-	-	-	-	8月5日(金)～8月12日(金)	7
13	平成24年度	8月3日(金)～8月11日(土)	北村次長	-	10	-	-
14	平成25年度	-	-	-	-	7月22日(月)～7月29日(月)	8
15	平成26年度	8月1日(金)～8月9日(土)	清水次長	-	10	-	-
16	平成27年度	-	-	-	-	7月22日(水)～7月29日(水)	8
17	平成28年度	8月2日(火)～8月9日(火)	藤村課長	-	9	-	-
18	平成29年度	-	-	-	-	7月23日(日)～7月29日(土)	7
19	平成30年度	7月31日(火)～8月7日(火)	坂井課長	-	8	-	-
20	令和元年度	-	-	-	-	7月22日(日)～7月28日(日)	9

※1 交流団体は、「ロシアイルクーツク州政府」 ※2 平成15年度は新型コロナウイルス(SARS)の影響により中止

※3 平成21年度は新型インフルエンザの影響により中止

令和元年度「21世紀石川少年の翼」実行委員会委員名簿

職 名	氏 名	備 考
石川県観光戦略推進部長	山本陽一	委員長
石川県市長会事務局長	桶田光一	監査委員
石川県町長会事務局長	打和浩之	”
石川県高等学校長協会会長	宮本雅春	
石川県小中学校長会理事	吉田明生	
石川県健民運動推進本部事務局長	青木美紀	
石川県教育委員会教育次長兼学校指導課長	塩田憲司	
石川県教育委員会生涯学習課長	清水茂	
石川県少子化対策監室子育て支援課長	畦内一夫	
石川県観光戦略推進部国際交流課長	戒田由香里	事務局長

(以上10名)

令和元年度 21世紀石川少年の翼交流事業報告書

令和2年3月

発行 「21世紀石川少年の翼」実行委員会
(石川県観光戦略推進部国際交流課内)

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1丁目1番地
TEL 076-225-1382 FAX 076-225-1383
<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/kokusai/>
Eメールアドレス e200500@pref.ishikawa.lg.jp



21世紀石川少年の翼
交流事業報告書